



京丹後市保幼小中一貫教育
モデルカリキュラム

丹後学

【令和7年度改訂版】

「探究的な学び」の実現・充実による
グローバル人材の育成



- 問題解決能力
- 多様な他者と協働する力
- コミュニケーションツールとしての英語運用能力

令和7年3月
京丹後市教育委員会

追い立てられるような日々の中
少し立ち止まって
「学校」という場所
「教員」という仕事について考えてみる

わたしの中に
あなたの中に
改めて浮かんでくるのは

われわれ教員が預かっているのは
子どもたち一人ひとりの
未来につながる1日
その人生に対し何らかの影響を与える1年である
ということ

その1日・1年を成長と笑顔で満たしたい
という思いを
今も消さず心の中にもっているということ

実社会の影響を色濃く受けるとはいえ
「学校」という場所は
「理想」を語り合える場所でありたい
大小取り混ぜた自他の成功と失敗に
こころを震わせ続けられる場所でありたい
ということ

子どもたちが巣立っていく社会は
「VUCA」とよばれる予測困難な時代

そうした社会にあっても
京丹後市で育つすべての子たちが
自らの人生を「自分らしく」歩んでいくために
必要となるモノ（資質・能力）とは何か

その力・心・意識を育んでいくことのできる
学校・授業・教員の姿とはどのようなものか

VUCAの時代においては
「教育」自体も
「たった一つの正解」をもたない「問い」

その問いをわれわれ自身の「課題」とし
わたしたちなりの「教育のカタチ」を
「探究」していきたい

子どもの今を見つめながら
子どもの未来を見据えながら



1 冊子作成の目的

- ☑ 本冊子は、各学校園所での「市が目指す教育の具現化・充実」のための資料として作成する
- ☑ 「市が目指す教育」とは、
『探究的な学びをととしたグローバル人材の育成』であり、
本冊子では、その目的と手法について整理・解説・例示する
- ☑ 本冊子の役割は、
『①グローバル人材(問題解決能力・協働性・英語運用能力)の育成
②探究的な学び』に関する各学校園所での研究・実践の
推進・充実のための「手掛かり・出発点」となることである

2

冊子の構成

A 改訂にあたって	… P4
B 「丹後学」の定義・目標	… P5
C グランドデザイン	… P7
D 「丹後学」における探究的な学びを構成する各要素	… P8
◦ 探究の過程	
◦ 保幼小中一貫教育の枠組みの効果的活用(子ども主体の学び)	
◦ STEAM教育	
◦アントレプレナーシップ教育	
◦ プログラミング教育	
◦ SDGs (単元デザイン【イメージ】含む)	
◦ デザイン思考	
E 丹後の地域素材	… P15
F 単元指導計画(例)①②	… P16
◦ Ⅲ期 キャリア教育の視点を入れた丹後学	
◦ Ⅲ期 地域の課題改善の視点を入れた丹後学	
G 単元指導計画(例)③(1)～(4)	… P25
◦ 「令和5・6年度活用版」に掲載した4事例	

※ 令和4～6年度「丹後学」カリキュラム作成部会名簿

A 改訂にあたって

★ 京丹後市 学校教育 指導の重点 【重点化した目的・目標と手法の整理】

社会背景

(今、そして、)これからは

予測困難な時代(VUCA)

= その時代を生きる子どもたちは、どんな状況に直面するのか。
どんな問題・課題をクリアしなければならないのか。 >>>

分からない

であるならば、1つ1つの知識・スキルよりも

資質・能力(汎用的な能力)

目的

手段

主体的・対話的で深い学び

の育成が必要

対応させたまま 具体化

グローバル人材

目的

手段

探究的な学び

の育成

- ・問題解決能力
- ・多様な他者と協働する力
- ・コミュニケーションツールとしての英語運用能力

図のような問題解決的な活動が
発展的に繰り返されていく
一連の学習活動である。(文科省)「グローバル人材」を構成する
資質・能力【例】

01

問題解決能力

- A 情報活用能力
- B 言語能力
- C 各教科の基礎的な知識・技能

- A-1 課題発見・目標設定力
- A-2 情報収集力 (スキル+理解)
- A-3 情報の整理・分析力
(スキル+思考・判断)
- A-4 行動・表現力
- A-5 評価力 (学習調整力)

- B-1 言語(知識)の理解・獲得 (input ⇄ 語彙力)
- B-2 知識・概念の操作による思考
- B-3 言語等を活用した伝達・表現 (output)
- B-4 目的意識・相手意識

言語力は、知識と経験、論理的思考、感性・情緒等を基盤として、自ら考えを深め、
他者とコミュニケーションを行うために言語を運用するのに必要な能力
～「言語力の育成方策について(報告書案)」H19・8月言語力育成協力者会議～

02

多様な他者と協働する力

- ☑ 自己理解・他者理解
- ☑ 他者の存在尊重・多様性受容
- ☑ 目的意識
- ☑ コミュニケーション能力
- ☑ 協働の価値理解・意欲

- 自己を知ること・他者を知ること
- 他者の存在自体と「自分とは違う」ことを認めること
- 目的意識をもって(他者とともに)試行錯誤・挑戦すること
- 「協働」の価値・楽しさを知ること
- ことばやその他の方法を用いて伝えよう・理解しようとする
- 「よりよいもの」を求めること・願うこと

03

コミュニケーションツールとしての
英語運用能力型にハマらず発想する
Think out of the boxひとまずやってみる
Give it a tryつまづくことで飛躍する
Fail forward

出典：一般社団法人SKY Labo

現在、本市の学校教育の重点として設定しているのは、『探究的な学びをととした、グローバル人材の育成』。
その設定理由については、左上図に示すとおりであるが、本改訂にあたり、以下の5点を改めて確認しておきたい。

- ① 「丹後学」を含むすべての教育(保育)活動の目的は、子どもたち一人ひとりが将来をたくましく・豊かに生き抜いていくために必要となるであろう3つの力(問題解決能力・協働性・英語運用能力)を育てることであり、「探究的な学び」は、あくまでもその目的を達成するための手段である。
- ② 一口に「問題解決能力」「協働性」と言っても、それを構成する要素としては多岐にわたる。各学園・学校園所での研究・実践を、確実に子どもたちの変容・成長につなげていくためには、例えば左下図に例示したような整理を組織的に実施・共有し、系統的・計画的に「学び」を積み上げていくことが必要となる。
- ③ 「探究的な学び」は目的達成のための手段であるとは言え、その「探究の過程」に関する基礎的な知識の理解・スキルの習得なしに問題解決過程での効果的な活用はできないため、ある学年・単元・活動において、それらの理解・習得自体が「ねらい」として設定されることはありうる。
- ④ 当然のことながら、学園・学校園所ごとに子どもの状況・実態や教育・保育に関わる諸環境・条件は違うので、その実施にあたっては、適切なアセスメント(実態把握とその要因分析)、市「指導の重点」や学校教育目標と関連付けた系統性のある目標設定、活用できる学校園所の強みや地域素材の整理等を丁寧に行い、根拠や意図が明確な教育・保育活動を「創造的に」構想・実施・評価していくことが重要である。
- ⑤ 近年では、教育・保育に関する様々なワードが提唱され、その実現を求められる状況にあるが、「グローバル人材の育成に資する探究的な学び」を追求していけば、その過程において、必然的にそれらの意味や価値を理解・納得できる場面が生み出されたり、子どもたちの実態や学園・学校園所の諸環境に合わせた具体化策を見出したりできる。

ex. 「主体的・対話的で深い学び」「目標と指導と評価の一体化」
「カリキュラムマネジメント」「個別と協働」「ICTの利活用」
「子ども主体と教師主導」「学級集団・学習集団づくり」
「認知能力と非認知能力」「生徒指導提要」「特別支援教育」 etc.

定義

- ・「総合的な学習の時間」を中心に行われる
- ・京丹後市の地域素材（人・環境・文化・産業）をテーマとした
- ・探究的な学び

の総称を「丹後学」とする

※「丹後学」の年間授業時数や取り扱う内容についての設定は行わない。

目標

「丹後学」は以下の1つまたは複数を目指として設定し
学習活動に取り組む

- ア 郷土への愛着と誇りを育てること
- イ 自己の生き方・あり方について考えを広げたり深めたりすること
- ウ 問題解決能力や多様な他者と協働する力を育てること

B 「丹後学」の定義・目標

各期の指導目標

◎ 前記『「丹後学」の定義・目標』に基づき、「丹後学」を構想・実施・評価していく際の指標として、各期の指導目標を以下のように整理する。

	0期・Ⅰ期前半 (5歳児～小2年)	Ⅰ期後半 (小3・4年)	Ⅱ期 (小5～中1年)	Ⅲ期 (中2・3年)
学びの場	「遊び」・生活科	丹後学(総合的な学習の時間)		
地域への 愛着と誇り	身近な地域の具体的な人・環境・文化などに対して肯定的な感情をもてる出会いや体験をする。	身近な地域のよさや課題を知る。	京丹後市のよさや課題について理解する。	国内や世界の他地域の情勢・状況も踏まえながら京丹後市のよさや課題について理解を深める。
		地域のよさの維持・創出や課題改善のために貢献・工夫努力している人や取組に共感する。	市の特色やよさの伸長・課題改善を目的とした探究的な学習・地域活動に自分らしく取り組む。	
自己の生き方・あり方を考える	具体的な人・環境・文化などに関わる中で、自分のよさや可能性に気付くとともに、自他と関係付くものとして身近な事象を捉える。	具体的な地域の人や事柄との出会い・探究的な学習をとおして、集団や地域社会における自己の役割や行動の仕方を考えたり、「なりたい自分」についてのイメージを具体化したりする。	具体的な地域素材を探究課題とした学習に取り組む中で、「よりよい地域づくり」のための自分の能力やよさの生かし方・人や地域社会との関わり方を考える。	具体的な地域課題の改善策・解決策を検討・構想する活動をとおして、望ましい人生観・勤労観を身に付けるとともに、「よりよい自分や社会」を実現していくための方策を考える。
問題解決能力・多様な他者と協働する力	遊びや日常生活の中にある「不思議さ」や「おもしろさ」に気付き、様々な具体的な事物や人に興味や関心をもつ。 自然や身近な物事に触れながら、考えたり、試したりする楽しさを体験する。	学習や日常生活を通じて興味や関心の幅を広げ、知的好奇心を育む。 身近な物事を観察したり、推測したりしながら、疑問に思うことを見つけたり、誰かに質問を投げかけたりする。	興味や関心のある事柄やその時々課題等について、適切に方法を選択しながら情報を集めたり、整理したりする。 収集・整理した情報を、様々な視点から分析し、目的意識や相手意識をもって筋道を立てて考え、自分なりの解をもつ。	収集・獲得した情報・知識を統合した上で、客観的・倫理的に分析を進め、豊かな発想と積極的な行動によって、探究の過程で捉えた課題の本質に対しての自らの解決策を見出す。
	身近な人と触れ合ったり、遊んだりする中で、多様な感情経験を積んだり、相手の気持ちを理解したりする。 また、その感じ方等に違いがあることに気付く。	仲間と共通の目標に向かう活動をおして、協力したり助け合ったりする楽しさを実感したり、集団の中での役割について理解したりする。	異なる背景や価値観をもつ人々の考えや個性を尊重しながら、自分らしい役割の果たし方を考え、行動していく中で、他者と高め合えた経験を積み上げる。	多様な人々と、互いのよさや違いを最大限に生かしながら協働的に課題解決活動に取り組むとともに、地域や社会の一員としての役割を自覚する。
「総合的な学習の時間」及び「各学園や学校で重点化した資質・能力」の育成に関わる指標・系統表については、各学園・学校で作成・確認されたものを活用する。				

グローバル人材の育成

学園教育目標

各校の全教育活動

総合的な学習の時間

丹後学

地域素材をテーマとした
探究的な学び
↓
ア郷土への愛着と誇り
イ自己の生き方・あり方
ウ問題解決能力・協働性

探究的な見方・考え方を働かせた
横断的・総合的な学習
・よりよい課題解決
・自己の生き方を考える

活用/育成

★他教科などで身に付けた資質・能力
★教科などを越えた全ての学習の基盤となる資質・能力
(情報活用能力・言語能力・考えるための技法)

探究の過程

課題の設定 / 情報の収集 / 整理・分析 / まとめ・表現



型にハマらず発想する
Think out of the box



ひとまずやってみる
Give it a try



つまづくことで飛躍する
Fail forward
出典:一般社団法人SKY Labo

小1・2年生「生活科」での学び

具体的な活動や体験を通じた自立し生活を豊かにしていくための資質・能力の育成
【試行錯誤や繰り返す活動/伝え合い交流する活動/振り返り表現する活動/児童の多様性の有効活用】

幼児期の“遊び”を通した総合的な学び

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

健康な心と体/自立心/協同性/道徳性・規範意識の芽生え/社会生活との関わり/思考力の芽生え/
自然との関わり・生命尊重/数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚/言葉による伝え合い/豊かな感性と表現

「丹後学」を探究的な学びにしていけるための
アプローチ・手法

STEAM教育

- ✓ 理数系を中心とした様々な知識を活用・統合
- ✓ 実社会の問題の発見・解決を目指す
- ✓ 科学性・客観性・論理性・人にとっての意味や価値の重視

アントレプレナーシップ教育

- ✓ 自ら新たな環境に飛び込む
 - ✓ 未知の事柄や状況に挑戦し続ける
 - ✓ 新たな価値を生み出していく
- などの
マインドや行動力
を育む

プログラミング教育

- ✓ 最適・効率的な問題解決の方法を試行錯誤し見出す
「プログラミング的思考」・論理性を育む

SDGs

- ✓ ローカルな視点とグローバルな視点からの現状・課題の
理解・改善策検討・意識向上
- ✓ 学びを「グローカル（地域性を考慮しながら地球規模で考え地域で行動化）」に

デザイン思考

- ✓ デザイナーがデザインの過程で用いる考え方・手法
- ✓ 課題や問題の最適な解決を図るための思考法
- ✓ 基本プロセスは「共感→定義→発想→試作→テスト」

「探究的な学び」の充実のための基盤・ポイント

- ✓ 3つのマインドセット
- ✓ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」
- ✓ ICTの効果的活用
- ✓ 学びのUD化
- ✓ 自己調整力の育成（振り返り等）
- ✓ カリキュラム・マネジメント(教科横断的・PDCAサイクル・学校内外の資源のフル活用)

D 「丹後学」における探究的な学びを構成する各要素について

01 探究の過程

一般的に、「探究的な学び」は以下のような文言と図で定義づけられ、「探究の過程」は、その図の中において「①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現」の順でスパイラルに連続するものとして示されている。

「探究的な学習」とは、図のような問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく一連の学習活動である。

(「今、求められる力を高める学習指導」 文科省)



ここで確認できるのは、以下の4点。

- ① 「探究的な学び」とは、問題解決的な活動であること
- ② 設定された「問題・課題」は、探究の各過程をくぐりながらその「解決」が目指されること
- ③ 「問題・課題を解決する」とは、「探究の過程」1サイクルで完結するものではないこと
- ④ 「探究的な過程」では、情報活用能力や言語能力が用いられること

Point!

★単元・授業を「探究的な学び」にするための第一歩は、次の3点。

- ① 「問い(Q)」から学びがスタート
- ② 学習活動の目的は、「問い」に対する自分(たち)なりの「答え・考え(A)」をつくること
- ③ 「答え・考え」をつくる過程に、「情報の収集/整理・分析/まとめ・表現」を取り入れる

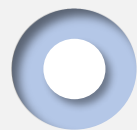


その上で…

- ◎ 「子ども = 学びの主体者」であるというスタンスを貫く
 - ・子どもたちが実際に取り組む(取り組んでいる)学習活動が、「将来につながる力を育てる・経験を積むものとなっているか？」という視点から単元・授業の状況把握・構想・実施・評価(RV-PDCA)を進める。
 - ・教えないと育たないことは教える。委ねないと育たないことは委ねる。
- ◎ 質を高めるためにも、量を確保する
 - ・例えば一輪車。1日だけの練習と1か月続ける練習のどちらが乗れるようになる可能性は高いだろうか？
 - 子どもたちが、問題解決場面における「探究の過程」の活用力を高める(=深い理解と確かな習得)メカニズムも、本質的には同じであるはず。
- ◎ 「探究の過程」は行きつ戻りつ
 - ・左図には、順序性をもたせて4つの過程が示されているが、実際の学習場面では、不足であれば前の過程に戻ることも、不必要であれば次の過程にジャンプすることもありうる。
 - 大切なことは、設定された(した)「問い」に対する自分なりの「答え・考え」をつくるために必要なこと・すべきことを考えること、進捗状況を自己評価しながら、やるべきことに取り組むこと。(=自己調整力 = 主体性)
- ◎ 地域・学校園所の特徴を活かす
 - ・目指す保育・教育の方向性は同じであっても、各地域・学校園所の状況やリソースには、当然違いがある。そうした「違い」は、プラス面もマイナス面もすべて「特色」ととらえたい。
 - その「特色」を、いかに子どもたちの「学び」へ取り入れていくか・活用していくか。(←各学校園所が地域とともにその解を見出していくべき「探究課題」)

D 「丹後学」における探究的な学びを構成する各要素について

02



保幼小中一貫教育の枠組みの 効果的活用（子ども主体の学び）

目標

「丹後学」は以下の1つまたは複数を目標として設定し学習活動に取り組む

- ア 郷土への愛着と誇りを育てること
- イ 自己の生き方・あり方について考えを広げたり深めたりすること
- ウ 問題解決能力や多様な他者と協働する力を育てること

改めて、「丹後学」で育成を目指す3つの目標を確認してみると、そのどれもが、一定期間の集中的な学び、あるいは、特定の指導者による豊かな単元の構想・実践だけではカバーできないほどの広さと深さをもっていることに気付く。

ただ、ここに重点化された3つの目標は、京丹後市で育つ子どもたちの「今と将来」がよりよいものとなるよう、ぜひとも一人ひとりに育みたいものであり、その実現のために最大限に意識・活用していきたいのが、本市の保幼小中一貫教育の枠組みである。

Point!

★長期的・体系的なカリキュラムの構築

一貫教育では、学園内の学校園所での目標の共有・一貫性ある教育課程の編成が可能。
この特徴を「丹後学(探究的な学び)」のカリキュラムの構築にも当てはめていくことで…

①目指す「目標・子どもの姿」実現までのロードマップ（各期の指導目標や指導内容）を明らかにできる。

②目指す「目標・子どもの姿」実現のために必要・重要と考えるものを、すべての校種・期で大切にしていることができる。

〔ex. 幼児期から中3まで

好奇心を大切に or 「～したい！」を大切に or
自己決定を大切に or 3つのマインドセットを大切に など〕

③子どもたちが、長期的な視点で同じテーマや課題に取り組むことが可能となり、「探究的な学び」の深さと継続性を高めることができる。

★年齢を超えた協働学習の実現

一貫教育では、異なる校種や年齢の子どもたちが一緒に学ぶ機会を設定しやすい。

※「異年齢の学習機会を設定しやすい」のは、

- ①一貫教育の枠組みがあるので、調整・連携がしやすいから
- ②同じ教育目標に向かって教育活動が構想・実施・評価されているから

学園によっては、学校園所間の距離等の条件もあるが、実施するタイミングやICTの活用等を工夫したり、それぞれのねらいやニーズをすり合わせたりしながら、異年齢だからこそ生み出せる学びの場面・教育効果を積極的に探っていききたい。

★個別最適な学びの支援

一貫教育では、長期的・組織的に一人ひとりの子どもの状況や育ちを見取り、情報や変化を蓄積・共有していくことができる。

この仕組みを最大限に整備・活用することで、一人ひとりの子どもへの理解をより深め、それぞれの興味や強み、学習状況等を踏まえた「学び」を適切にコーディネート・支援することが可能となる。

★保護者や地域との連携強化

保護者・地域の理解・協力を得ながら、地域の特色や素材を最大限に活用した学び・丹後学の目標に迫る学びを実現していくためにも…

①学園・各校園所から発信する際は、学園の設定目標や目指す教育のカたちとつなげた内容にすることを意識し、理解・浸透を図る

②各校園所がもつネットワークや地域素材の活用事例の共有化を進める

D 「丹後学」における探究的な学びを構成する各要素について

03 STEAM教育

【文部科学省HP】
「STEAM教育等の各教科等横断的な学習の推進について」より

社会状況の整理と求められる力

社会が激しく変化し、多様な課題が生じている今日においては、これまでの文系・理系といった枠にとらわれず、各教科等の学びを基盤としつつ、様々な情報を活用しながらそれを統合し、課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結びつけていく資質・能力の育成が求められている。

中央教育審議会答申(R3 1/26 抜粋)

STEAM教育の定義と推進の方向性

STEAM教育は、各教科での学習を実社会での問題発見・解決にいかしていくための教科横断的な教育

教育再生実行会議第11次提言

STEAMの各分野が複雑に関係する現代社会に生きる市民として必要となる資質・能力の育成を志向するSTEAM教育の側面(※)に着目、STEAMのAの範囲を芸術、文化のみならず、生活、経済、法律、政治、倫理等を含めた広い範囲(Liberal Arts)で定義し、推進することが重要である。

中央教育審議会答申(R3 1/26 抜粋)

※STEAM教育の目的のもう一つの側面は、「人材育成の側面」。

文部科学省では、STEM(Science, Technology, Engineering, Mathematics)に加え、芸術、文化、生活、経済、法律、政治、倫理等を含めた広い範囲でAを定義し、各教科等での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科等横断的な学習を推進しています。

文部科学省HP

Point!

★「丹後学にSTEAM教育を取り入れる」とは？

ここで強調したいことは、「取り入れる」ことによって新しいことが入るわけでも、難しいことをするわけでもないということ。

5ページにある「丹後学」の定義に沿って単元や授業を構想・実施すれば、小中学校段階で目指したいSTEAM教育は、十分に取り入れられた状態となる。

すなわち、

☑ 「知る・触れる」で終わらず、取り上げた地域素材に関わる課題改善や特色・よさの伸長が、子どもたちの学習・活動の目的(=探究課題)に設定される。

➡➡ 「実社会での問題発見・解決」

☑ 取り上げた地域素材に関して収集した情報を理解する、整理・分析する。

➡➡ 「各教科等での学習を生かす」「教科横断的」

☑ 設定した探究課題に対して子どもたちが自分(たち)なりの考えやアイデアをまとめる、発信・行動化する。

➡➡ 「各教科等での学習を生かす」「教科横断的」

➡➡ 「実社会での問題発見・解決」

また、特にSTEM領域に共通する特徴を意識して取り入れることで…

☑ 探究の各過程で、客観的なデータや科学的な研究成果・検証結果等などがより重視されることになるので、「探究」の質が高まる。

※感覚・経験・好き嫌い・得手不得手による発想・判断・発信が

➡客観的データ・科学的な検証を根拠とした論理的な発想・判断・発信に



国が示す「求められる力」(市のグローバル人材を含む)を育てる
地域学習・活動が実現する

D 「丹後学」における探究的な学びを構成する各要素について

04



アントレプレナーシップ教育

アントレプレナーシップ＝「起業家精神」と訳されることも多いが、以下のような解釈・定義づけもある。

新しい事業を創出し、社会に変革をもたらそうとする行動力
※あらゆる職業に求められる「起業家的行動能力」
“精神”というより、訓練して習得できる力
(特定非営利活動法人アントレプレナーシップ開発センター 理事長)

こうした定義も参照しつつ、本市として目指す教育の方向性を踏まえ、アントレプレナーシップ教育を

◎自ら新たな環境に飛び込む
◎未知の事柄や状況に挑戦し続ける
◎新たな価値を生み出していく
} マインドや行動力
などを育む学び

と整理し、各学校園所での教育・保育活動の中で、意図的・継続的にその育成を図っていきたい。

Point!



左記は、市としてアントレプレナーシップ教育を整理・定義づけ、教職員全体で共通理解していくためのものであるが、各校園所で具体化を図る際には、「アントレプレナーシップ教育」という一側面での部分的な目標にとらえるのではなく、市としての重点(「探究的な学びをととしたグローバル人材の育成」における「イノベーション人材のマインドセット」との関係性・類似性を整理し、カリキュラム・マネジメントの視点をもって教育・保育活動を構想・実施・評価していくことを大切にしたい。

イノベーション人材(STEAM人材)のマインドセット

出典:一般社団法人SKY Labo



型にハマらず発想する
Think out of the box



ひとまずやってみる
Give it a try



つまづくことで飛躍する
Fail forward



アントレプレナーシップを育む授業・取組【案】

- ◎「丹後学」を中心とした「探究的な学び」の中で、
 - ・地域素材をテーマとした課題解決型の学びに取り組むことをとおして
 - ・「キャリア教育」の視点を大切にした職場体験活動をとおして
 - ・地域の様々な人と出会い、コミュニケーションをとったり、協働したりすることとおして
 - ・自分(たち)の学びの過程を振り返り、「自己の生き方・あり方」を考える活動をとおして
- ◎各教科の学習で取り上げられた先人・著作者・登場人物の生き方や考え方を知り、理解していく活動をとおして
- ◎特別活動の行事・取組を子どもたちが主体的・目的的に進める活動をとおして

D 「丹後学」における探究的な学びを構成する各要素について

05 プログラミング教育

Point!

★プログラミング教育で育成が図られる「プログラミング的思考」とは？

文部科学省「小学校段階におけるプログラミング教育の在り方について（議論の取りまとめ）」によると、

自分が意図する一連の活動を実現するために、

- ・どのような動きの組合せが必要であり、
 - ・一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組合せたらいいのか、
 - ・記号の組合せをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、
- といったことを論理的に考えていく力

上の文言では、コンピューターの領域がイメージされる定義となっているが、いくつかの言葉を違う言葉に置き換えると、課題解決や目標達成を目指す「探究的な学び」の過程で必要となる思考力・判断力・自らの学習の状況を客観的にとらえる力（メタ認知）とも関連付く定義となる。

そこから、「プログラミング的思考」はデジタルの世界に限定されたものではなく、より広い場面で活用される

最適・効率的な問題解決の方法を、試行錯誤し見出していく力

ととらえ、コンピューターを用いた学習活動や「丹後学」を中心とした様々な教育活動をととして、その育成を図っていきたい。

Cf. 「探究的な学び」の中でのICTの利活用

【教員は】授業にどう取り入れる？

◎視覚教材・検索機能の活用

- ➡生活・学習経験の差を埋める
- ➡学習内容に現実感をもたせる
- ※ 五感の中で対応しにくいもの（嗅覚・味覚・触覚）は、具体物の活用や体験活動の設定で対応

◎学習の効率化・活性化

- ➡集団内での情報や意見の共有
- ➡他者参照による意欲向上・よさや気付きの波及
- ➡画像・動画・成果物等での学びの足跡・成果の蓄積
- ※ 不必要な作業を「時短」し、大切な活動の時間を確保

【子どもに】どんな力を付けていく？

◎学習活動において必要に応じてコンピューター等の情報手段を適切に用いて

- ①情報を得たり、
- ②情報を整理・比較したり、
- ③得られた情報をわかりやすく発信・伝達したり、
- ④必要に応じて保存・共有したり

といったことができる力

「情報活用能力の育成」（文科省）

◎このような学習活動を遂行する上で必要となる

- ①情報手段の基本的な操作、②プログラミング的思考、
- ③情報モラル・ファクトチェック、④情報セキュリティ、
- ⑤統計

等に関する資質・能力

D 「丹後学」における探究的な学びを構成する各要素について

06 SDGs

地球環境をはじめとする様々な地球規模の課題が叫ばれる中、国内外の様々なレベルでその危機感を共有し、対策を具体化・行動化していこうという動きが加速している。そうした全国的・全世界的な取組推進の状況を受け、「丹後学」においても「SDGs」の視点を取り入れ、今後「持続可能な社会」をつくり、生きていく主体者として必要となる知識や考え方、スキル、意識といったものを子どもたち一人ひとりに育んでいきたい。

「SDGs」に掲げられている17の目標と169のターゲットは、主となる対象者も、規模も、目標の難易度も様々であり、全てが「丹後学」で扱う地域素材や探究課題と関連付けられるわけではないが、「全世界的」とされる課題も、結局のところ多くの国・地域に共通する「局所的な課題の集合」であるから、京丹後市との接点を見出せるSDGsの目標・各国や各地域の状況も複数存在すると考えられる。

必要に応じて「SDGs」に関する基礎的な学習を学年や学習経験に沿った形で設定しながら、グローバルの視点とローカルの視点を行き来できるような場・活動(SDGsの視点から京丹後市の状況を見つめたり、逆に、地域の課題をSDGsの目標と重ねたり)を設定していくことで、各学校園所での「丹後学」・地域課題改善の取組をより充実(地域へのより深い理解・自分たちの学習・取組の価値の実感・各地域での事例を踏まえた改善策の検討等)させていきたい。



令和3年5月 国の「SDGs未来都市」に選定
同・9月「京丹後市SDGs未来都市計画」策定

Point!

「SDGs」の視点を取り入れた
単元デザイン【イメージ】

「令和5・6年度活用版」の案を再掲

【例 #01】「地域の魅力発見」

地域の自然・人・産業・文化などのよさを探す活動

⇒目的・相手を決めて、見つけたよさを発信する活動へ

【Target 8-9】

2030年までに、地方の文化や産品を広め、働く場所をつくりだす持続可能な観光業を促進する政策をたて、実施していく。

※教えてもらったよさだけでなく、自分たちなりの視点・多面的多角的な視点から広めたいよさや価値を見いだす活動を重視することで、関連付く目標を広げていくことも可能。

【例 #02】「丹後王国(古墳群)・山陰海岸ジオパーク・伝統文化」等
地域の自然遺産・文化遺産についての学び

⇒その学びの中で膨らませた「保護の必要感」をもとに、
具体的な保護案づくり・保護活動の実施へ

【Target 11-4】

世界の文化遺産や自然遺産を保護し、守っていくための努力を強化する。

※保護案を検討する対象によって関連付く目標を広げていくことも可能。

【例 #03】地域のくらし・未来を見つめる学習 <市の未来創造>

地域に足を運び、人と出会う活動をもとに、様々な人の立場から
地域の暮らしを見つめる。(現状把握・理解・分析)

⇒見いだした「広げたいよさ」は、伝えたい相手を明確にしたアピール・
啓発活動へ。「改善したい課題」は、メッセージや改善案の発信・自分
たちの具体的行動へ。

【Target 11-2】

2030年までに、女性や子供、障がい者、お年寄りなど、弱い立場にある人々のニーズを考え、公共の交通手段を広げるなど、全ての人に安全で安く手軽に利用できる、持続可能な交通手段を提供する。

【Target 11-7】

2030年までに、特に女性や子供、お年寄りや障がいのある人などを含めて、誰もが、安全で使いやすい緑地や公共の場所を利用できるようにする。

※どんな立場の人を対象にするかによって関連付く目標を広げていくことも可能。



D 「丹後学」における探究的な学びを構成する各要素について

参考：『世界を変えるSTEAM人材』（ヤング吉原麻里子・木島里江 共著 / 朝日新書）

07 デザイン思考

「デザイン思考」とは、

従来、デザイナーがデザインの過程で用いてきた思考法を、問題・課題解決の過程にメソッドとして取り入れることで、飛躍した(型にはまらない)発想につなげるための一連のプロセスと、それを実践するのに必要な心の在りよう。

※ デザイナーの考え方・手法(例)

… デザイナーは、ユーザー自身も問題として認識していない潜在的なニーズを吸い上げて発想し、モノづくりにつなげる

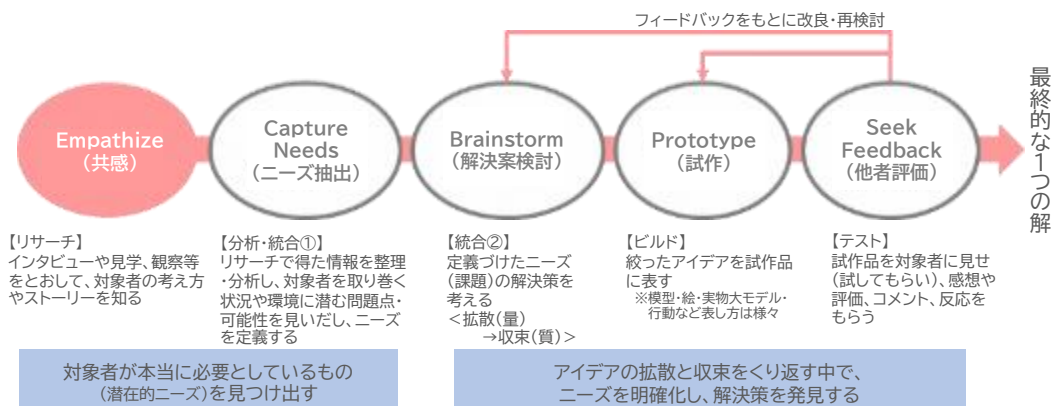
※ メソッド＝目的達成のために決められたやり方・方法・方式

「デザイン思考」とは、

「なぜ作るのか」(Why)という問いから始まり、「何を作るのか」(What)を発見し、「どう作るのか」(How)を模索するプロセス。

この対象には、手に取れる物理的なモノだけでなく、「体験」や「価値観の構築」といった目に見えないものも含む。

解決策を「発見」するツールとしての「デザイン思考」の手順



Point!

★ 問題・課題解決の過程に「デザイン思考」を取り入れる価値・留意点

◎ 対象者への「共感」を出発点・活動のエネルギーとする「デザイン思考」を取り入れ、子ども(たち)の活動を「目的意識・相手意識」をもったものに。(＝子どもたちの「主体性(自己調整力)」を引き出す！)

◎ 対象者への「共感」と様々な状況・環境とを合わせ、根拠ある「潜在的ニーズ」を見出すことがその後の活動の出発点となるため、インタビュー等の情報収集過程と事後の情報の整理・分析過程の目的や内容を、従来とは大きく変えていく必要がある。
(事実や状況に関する情報重視 → 「人を知ること」を重視)

◎ 「デザイン思考」を用いて問題・課題の解決策を考えていく過程においては、対象となる人にどこまで寄り添えるかが重要となる。
➤➤➤ 対象者の話に耳と心を傾け、そこから得た気付きを「とりあえず」形にする。形にしたもの(プロトタイプ・試作品)を対象者に見せ、返してもらうフィードバックに耳と心を傾け、ひたすら改良を続けていく。

◎ 「デザイン思考」における「思考」とは、ある現象を理解したり、説明したりするために、積極的にアイデアを飛躍させて仮説を形成すること。
➤➤➤ 左図のような一連のステップを踏みつつ、アイデアを練ったり飛躍させたり、とりあえず形にして可視化したりするプロセスの中で、(目的や相手への意識をもちながら)自由に発想する奥義を身に付けていく。とにかく手を動かしながらアイデアを練り、作りながら考える。

◎ 発想・発見ツールとしての「デザイン思考」を機能させるためには、3つのマインドセットを重視しながら、そのプロセスを踏んでいくことが必要



型にハマらず発想する
Think out of the box

ひとまずやってみる
Give it a try

つまづくことで飛躍する
Fail forward

出典：一般社団法人SKY Labo

E 丹後の地域素材

「令和5・6年度活用版」の例を再掲

「丹後学」のねらいの実現に向け、下の例を参考に、地域や学校・児童の実態に応じた探究課題を創意工夫し設定する。



F

単元指導計画（例）

Ⅲ期 キャリア教育の視点を入れた丹後学

Ⅲ期 地域の課題改善の視点を入れた丹後学

F 単元指導計画(例)①

～ Ⅲ期 キャリア教育の視点を入れた丹後学 ～

単元の テーマ

「自分らしく・カッコよくハタラク」を探究しよう!!

単元 目標

【問題解決能力】

・市や地域の現状について収集・整理した情報をもとに、自らのワーク・キャリアの視点とつなげながら、そのさらなる発展のための新しいアイデアや価値を発想・創造する。

【生き方・あり方】

・地域をテーマとした課題解決活動での他者や地域との豊かな関わりをとおり、自己理解を深めたり、自分の可能性を自覚したりし、自らのライフ・キャリアに対するイメージを明確にする。

重点 要素

アントレプレナーシップ教育

【アントレプレナーシップ教育】

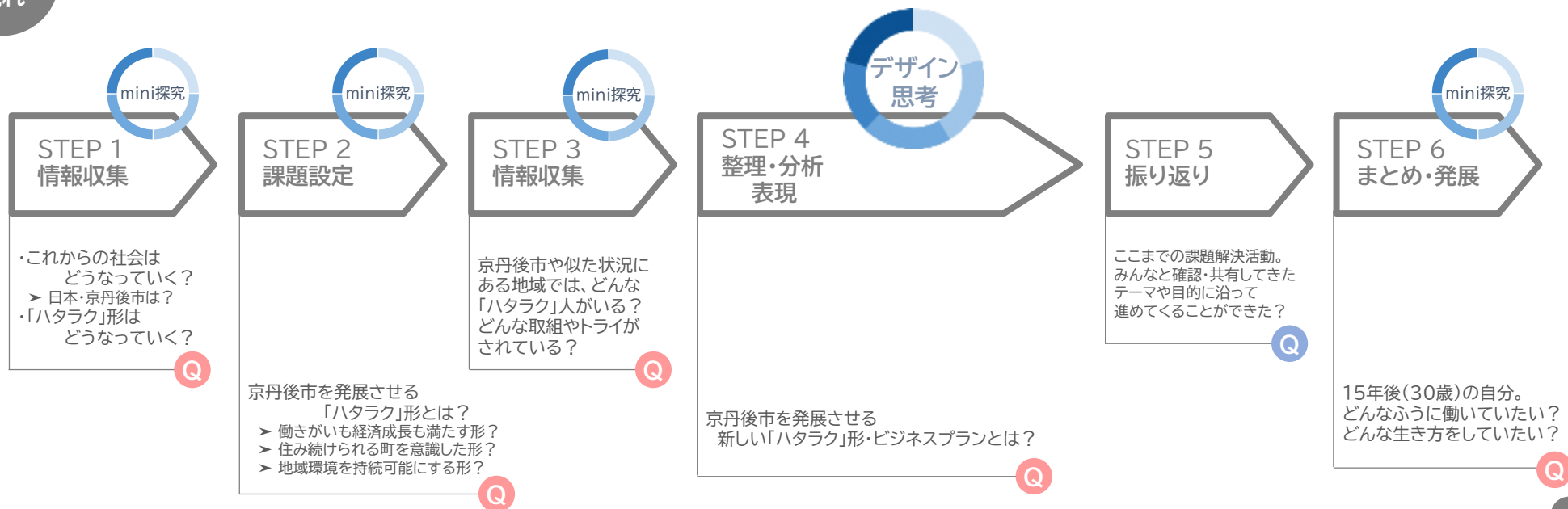
○「ハタラク」の視点から地域の現状を知り、人と出会う中で、
・自ら新たな環境に飛び込む
・未知の事柄や状況に挑戦し続ける
・新たな価値を生み出していく
などのマインドや行動力を育む!

単元の 流れ

各ステップで中心となるQ(問い・課題)

単元をとおして
大切にしたいマインド

3つのマインドセット(型にハマらず発想する・ひとまずやってみる・つまづくことで飛躍する) / 目的意識・共感を伴った相手意識 / 社会への参画意識・未来をよくしていきたいという意識(当事者意識) / 科学性・論理性(根拠)を重視する意識 / Think Global Act Local / 自分のアイデアや考えへの自信 / 興味や関心を拡大・深化させていく意識



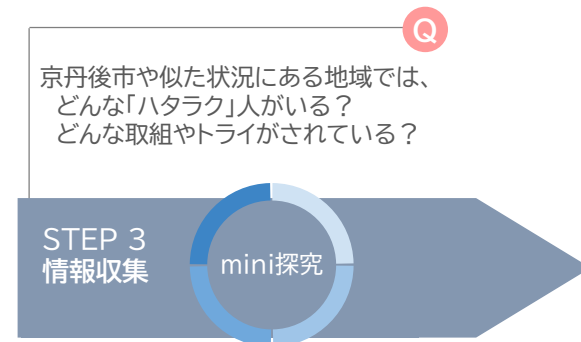
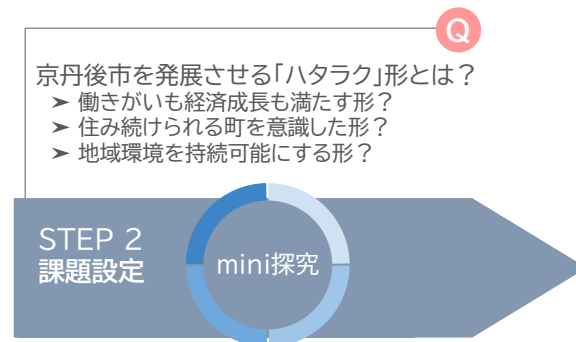
実践上のポイント

cf. 思考力

- 論理の筋道を考える力（論理的思考）
- 物事を多面的に考える力（多面的思考）
- 物事の本質を見極める力（批判的思考）

cf. 思考スキル

- 比較 ● 分類 ● 順序付け ● 関連付け（広げる）
- 多面的・多角的に見る ● 理由付け（原因・根拠）
- 見通す（結果の予想） ● 具体化（個別化・分解） ● 抽象化（一般化・統合）
- 構造化 ● 要約 ● 変化をとらえる



Point

最初の問いに関する「mini探究」に取り組み、
 学びのスタート地点をそろえる。

<例>

- ・社会の動向や仕事に関わる情報を共有し、現状認識や課題意識の大枠をそろえる
- ・探究の過程に取り組んでいく際に大切にしてい

くことを共有する。（3つのマインドセット・根拠・批判的思考（クリティカルシンキング）など）

身に付けさせたいスキル

- ・知りたい情報を見つける力
- ・知りたい情報を集める力
- ・集めた情報を整理・分析する力
 - >> 思考力・思考スキル
 - >> MECE（モレなく・ダブリなく）

留意点

- ・1つ目の問いに対する解を見つけていくために、どのような活動や情報が必要かを考える機会やその判断をもとに実施した活動や方法の効果を検証する機会を大切にする。
- ・とはいえ、共有する情報や状況認識が生徒の生活経験・学習経験の範囲内に収まってしまわないよう、必要に応じて教員の意図ある人選も入れる。

一人ひとりが価値ある探究課題を見つけられるよう、2つ目の問いに関する「mini探究」に取り組む。

<「価値ある探究課題」例>

- ・単元目標とのつながりをもつ課題
- ・当事者意識をもった課題
- ・その生徒なりの見通しや挑戦意図が明確な課題など

- ・目的意識等をもってアイデアを広げる発想力
- ・広げたアイデアを目的・条件等に沿って収束する力（取捨選択・優位付け等）
- ・自分の気づきやイメージ、考えを整理し、伝える力

- ・どのような「探究課題」を設定するかは、以後の活動の質やモチベーションに大きな影響を与えるので、設定までのプロセスを工夫したり、設定までに必要となる時間の個人差を認めたりしながら、一人ひとりが「〇〇だから、これがいい・これにしたい」と思える探究課題を見つけられるようにする。

※言語化できるほど課題を明確にすることは重要だが、それをきれいにまとめる作業は重要ではない。

○自らの設定課題を意識し、様々な方法で、できるだけ多くの情報を集められるよう、全体や個に対する指導・支援を工夫する。

○インタビューや講話等の実施時には、参加生徒にとって「価値ある出会い」となるよう、事前の打ち合わせをていねいに行う。

- >> 単元構想や当該活動のねらいの説明
- >> 参加生徒の設定課題や配慮事項等の伝達 など

- ・自分が欲しい情報を得るための効果的な方法の選択力
- ・出会いの前の準備力
 - >> 基礎情報の収集・自分なりの目的の明確化・仮説 など
- ・出会った相手の考え方や価値観、人生のストーリーを引き出す質問力
- ・出会いをとおして得た情報を残す力と整理・分析する力

- ・欲しい情報の収集状況やねらうスキルの定着状況に応じて、複数回の実施も検討する。
- ・関心や知的好奇心の高まり具合によっては、職場体験や体験的な活動の設定も検討する。
- ・事実や課題に直接迫る情報以上に、相手の「人となり・内面」に迫る質問にこだわることで、アントレプレナーシップと関連付く情報（マインドや判断・行動）を引き出すことができる。

実践上のポイント

京丹後市を発展させる
新しい「ハタラク」形・ビジネスプランとは？

取り入れたい手法



Point

○4つ目のQが単元のメインの問い。デザイン思考のプロセスをとおして自分なりのA(解・アイデア)を見つけ、形に！
○3つのマインドセットやアントレプレナーシップの考え方を重視して取り組み、一人ひとりが自分の可能性に気付ける活動・学びに！

STEP 4 整理・分析 / 表現

情報整理:
Fact & Feeling

課題の抽出:
Capture Needs

アイデア出し:
Brainstorming

創造:
Prototype

テスト:
Seek Feedback

改良:
Prototype

発表:
Presentation

STEP3の情報収集で
得た情報を2つの視点
に整理する

①インタビューや講話・職場
見学等で集めた情報を
「事実」と「思い・願い・
考え」に分類
※言語化された情報だけで
なく、見たことや感じた
ことも得た情報として分類
する

②分類したものをまとめたり、
関係付けたりしながら、
出会った人への理解・
共感を深める

※出会いの直後に、エンパシー
ポートレートを描くことも、
その人への理解・共感を
深めるために有効

理解・共感
↓
相手意識
の高まり

整理した情報をもとに、
出会った相手自身も
気付いていないニーズ
や課題を掘り起こす
【＝解決策を検討するテーマ
の設定・方向性の具体化】

※「課題を掘り起こす」とは、
相手の願いや解決課題
を推測・仮説すること

ただし、この推測・仮説に
は、できる限りの客観性・
論理性をもたせたいので、

・相手に関すること以外の追加
の情報収集

ex. 統計・類似する他者や他地域の事例 等

・整理した情報の多面的・多角
的な分析

・推測・仮説の論理性の検証
ex. 友達とのディスカッション・友達に説明
して、意見・評価をもらう 等

などを取り入れながら、
分析を深めることが重要

○○の△△という状況に対し、
◇◇になるようなアイデアを出
せば、□□になるのではないかな

テーマ・方向性
の具体化
↓
目的意識
の高まり

自分の設定テーマ・
方向性を意識しながら
アイデアを出す

※この過程で重要なのは、
正誤や実現可能性などに
こだわらず、思考を拡散
させること
【アイデアの量で勝負！】

量の確保と、新しい発想・
着眼点の発見のためにも、

・多くの人とのディスカッション
※互いの意見は「Yes, and～」でつなぐ

・様々な事例やデータの参照
(AIの活用も)

・固めてきた相手への理解や
自らの推測・仮説の柔軟な
とらえ直し

・京丹後市の現状に関する情報
の再収集

などを必要に応じて取り入
れながら、「動的に」発想し
ていくことを楽しみたい



型にハマらず発想する
Think out of the box

○目的意識(自分の設定テーマや方向性)と相手意識(自分の
アイデアに関係する人々)をもって、拡散させたアイデアを
取捨選択

○新しい「ハタラク」形・ビジネスプランのアイデアを形
(モノ・絵・図・文章など = プロトタイプ)にする

○プロトタイプ第1案ができたなら、出会った人やその他の
人に見てもらい、フィードバックをもらう

○もらったフィードバックをもとに、第1案を改良・発展
※できれば、第2案にもフィードバックをもらい、第3案までいきたい。

※ここは、ブレインストーミングで拡散させたアイデア
を収束させ、具体的な形にする過程

※生み出したいのは、今ある職業・仕事の進捗系、
今はまだない仕事やビジネスプラン(未完成でもOK)

※アイデアは、プロトタイプ(試作品)をつくりながら
考える

(手を動かしながら考える・他者の声を聞きながら考えることで、
足りない部分が見えてくる・新たなアイデアが生まれてくる
＝ ブラッシュアップが進む)

※「なぜそうしたのか・なぜそれがいいのか」といった
自分の「発想・選択・判断の根拠」は、収集・注目した
様々な情報・データ・フィードバックの内容をもとに
言語化できるようにしておく

アイデアの
具体化
↓
自分なりの
Answer



型にハマらず発想する
Think out of the box



ひとまずやってみる
Give it a try



つまづくことで飛躍する
Fail forward

○聞き手を意識した内容・
方法で、互いのアイデア
を発表・共有

○発表後の感想・意見交流
をとおして、互いのアイ
デアを価値付け・さらなる
発展・新結合

※「原稿を読む」のではなく、
自らのアイデアを理解し
てもらうために「伝える」
(聞き手の反応や理解度
に合わせて伝え方を工夫！)

※プレゼンテーションは、
学習成果を発表し合う
ためではなく、ディスカ
ッションのテーマを生み
出し、相互のアイデアを
さらによいものにしたり、
今後の具体的な動きに
つなげたりするために行
う

相手意識・
目的意識
↓
相互理解・
改善に



☆ Empathy Portrait ☆
その人から得た情報や受けた
印象を、色やイメージにして
表現した肖像画

Q

ここまでの課題解決活動。
みんなと確認・共有してきたテーマや目的に沿って
進めてくることができた？

STEP 5 振り返り

Point

単元のテーマや目標、重点要素に立ち返り、活動を
振り返る中で、自分(たち)にとっての本単元の「価値」
を見出し、確認・共有する。

身に付けさせたいスキル・マインド

- ・自分の活動・選択・判断に対するメタ認知能力
(= 自己調整力向上の土台固め)
- ・問題解決能力 … デザイン思考への理解と活用スキル
- ・生き方・あり方 … 3つのマインドセットやアントレプレナー
シップの価値理解と活用意欲向上

留意点

- ・とにかく和やかで、ゆったりとした雰囲気の中、
たくさんの学びの成果やその過程でのエピソード・
心の動きがシェアできるようにする。
- ・単元や本STEPでのねらいに沿って、よかった点
は波及させ、課題点は「次、どうするか」を集団で
検討する場面を仕組むなど、学びの一般化・共有化
を意識してファシリテートする。

Q

15年後(30歳)の自分。
どんなふう to 働いていたいた？
どんな生き方をしていたいた？

STEP 6 まとめ・発展

mini探究

単元をまとめる際の柱としたいのは、
What do you want to BE ?
本単元での様々な活動・出会いをとおして得たもの・
生み出せたものをもとに、「未来の自分」についての
理想やイメージ、あるいは、それを実現していくための
ロードマップを具体的に構想する。

単元
目標

【問題解決能力】

- ・収集・整理した情報をもとに課題設定する力
- ・自らのワーク・キャリアの視点とつながらながら、課題解決のための
新しいアイデアや価値を発想・創造する力 (発想・創造しようとするマインド)

【生き方・あり方】

- ・活動や生活の中で、共感的態度や知的好奇心をもって他者や身近な環境・
状況と関わっていかうとするマインド (そうした関わりの中で必要となるスキル)
- ・人との出会いや日常生活・学びから自己理解を深めようとしたり、
理想の自分や自らのライフ・キャリアに対するイメージを明確にし、
前向きにその実現を目指していこうとするマインド

cf.引き出したいまとめ・最後のQに対するA(例)

15年後、わたしは、

- ・こんな自分になっていたいな
- ・こんな場所で〇〇していたいな
- ・こんな役割が果たせるようになっていたいな
- ・こんな人たちに囲まれていたいな
- ・こんな課題を解決できているといいな (解決のために行動できているといいな)
- だから、今から、こんなことを～
- そのために、こんな時には、こんなふう to (こんなことを)～

F 単元指導計画(例)②

～ Ⅲ期 地域の課題改善の視点を入れた丹後学 ～

単元のテーマ

「東京から一番遠い町を、一番魅力ある町にするために!!」

単元目標

【問題解決能力】

- ・地域課題の解決に向け、これまでに身に付けた情報活用能力を十分活用し、明確な根拠や論理性のある解決策を立案する。
- ・3つのマインドセットを意識しながらデザイン思考の各過程の活動に取り組み、目的や相手に応じた解決策を自由に発想・創造していく楽しさや価値を知る。

【愛着と誇り／生き方・あり方】

- ・課題の発見・解決過程で出会った様々な人の思いや考え・願いをもとに、今後の地域との関わり方や自己の生き方・あり方についての考え・イメージを具体化する。

重点要素

STEAM教育・デザイン思考・SDGs

【STEAM教育】

- 地域という実社会の課題をテーマとして取り上げ、その状況把握や解決策の検討に、これまでに積み上げた様々な学習・生活経験を総合的・教科横断的に活用！
- 探究の過程・デザイン思考の過程においては、客観性・論理性・科学的な事実を重視！

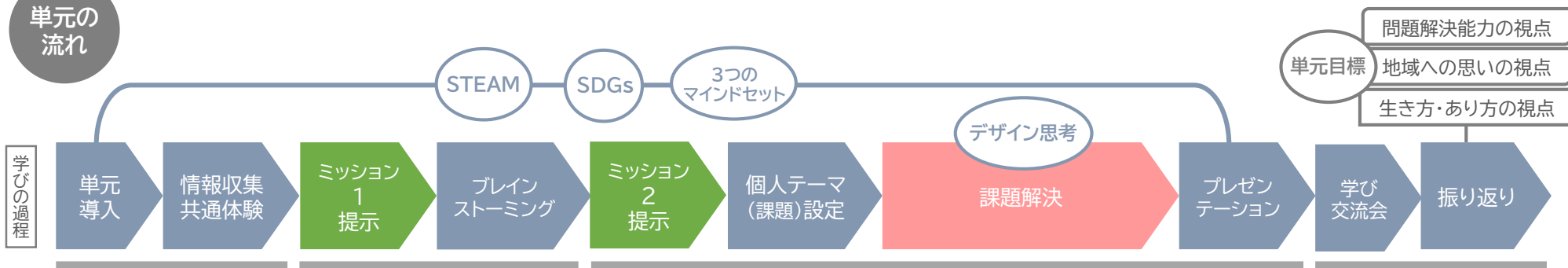
【デザイン思考】

- 「共感」と3つのマインドセットを重視したデザイン思考のプロセスで、課題解決活動を、目的意識・相手意識をもったもの、自由な発想や人の関わりを楽しめるものに！

【SDGs】

- ローカルとグローバルの各視点を行き来させることで、京丹後市の現状理解をより深いものに！課題解決の意味や価値をより大きなものに！

単元の流れ



各過程での活動イメージ

- ・単元のテーマや活動とのポジティブな出会い
- ・講話・見学・調査等を通じた地域に関する基礎情報の共有
- ・「SDGs」の視点で情報を整理し、地域を深く理解

今、あなたが社会人なら、京丹後市のためにどんな立場で、何をしますか？

- ・共通体験やこれまでの学習・生活経験をもとに様々な立場になったつもりで、地域貢献・活性化の案をブレスト！

京丹後市を「一番魅力ある町」にするためのアイデアをまとめ、伝えるべき相手を決めて発信しよう

- ・ここまでの学習活動や自分なりの着眼点をいかして個人テーマを設定
- ・デザイン思考のプロセスの中で、自由な発想をもとに新しい価値を生み出す
- ・アイデアを形にしていく際は、論理性（STEAM）や持続可能性（SDGs）を意識
- ・プレゼンテーションは、自らのアイデアの分野や内容に合わせた人に対して実施

- ・互いの学びの過程や成果、そこで生まれた感情や考え、学びをシェア
- ・単元目標にある3つの観点から自己の活動・学びを振り返り、自らの成長・変容を自覚化または今後の目標を設定

展開例

cf. 学びの交流 & シェア (内容例)

- ・学んだテーマ
- ・取り組んだ活動
- ・得た知識やスキル
- ・考えたこと・感じたこと 等

cf. 「社会人」のイメージ (例)

- ・もし京丹後市長だったら…
- ・今、京丹後市で起業するなら…
- ・今、地域の有志の人たちと活動をするなら…

【オリエンテーション】

単元の学びとどんな出会いをさせる？

<例>

- ◇個々の生徒や学習集団の実態・傾向に合わせた内容や順序、方法で、単元のテーマや目標等を提示してみよう。
- ◇「京丹後市」に関するこれまでの学びの振り返りを組み合わせながら、教員と生徒双方向のオリエンテーションにするのはどうだろう？

みんなで取り組む活動で、
学びのスタート地点を
そろえよう
(知識面・スキル面等)

【実態に即したQ(問い)の設定】
どんな問いを、どのように投げかける？

今、あなたが社会人なら、
京丹後市のために
どんな立場で、何をする？

- ◇設定するQ(問い)の内容や文言、提示するタイミングや方法は、これまでの活動の様子や個々の生徒・学習集団の実態・傾向に合わせて選択・決定
- ◇このミッションが次のブレインストーミングのQ(問い)・テーマ

自由な拡散型の
ブレインストーミングで、
個々の視点やイメージを
広げよう

単元導入

情報収集
共通体験

ミッション1
提示

ブレイン
ストーミング

【現在の市の状況整理】

この過程でもっておきたい目的は何？

- ◇京丹後市に関する様々な情報を収集をする必要性や、集めたい内容による適した方法の検討・選択場面をつくり出す。
- ◇協働的な情報収集活動や生徒のアイデア・ニーズを出発点とする共通体験をとおして、学びの方向性をそろえ、一体感を醸成する。
- ◇個々の生徒や学習集団の情報収集力や協働性についての最新のアセスメントをし、以後の単元の指導計画がより実態に即したものとなるよう構想・修正する。

ミッション型の「Q(問い)」の
提示をとおして、
学びへの意欲や自分事感を
高めよう

【テーマはミッション1のQ(問い)】

拡散型のプレストで生み出したい効果

- ◇正誤・優劣にこだわらないプレストで
 - 自分の意見が言える安心感を醸成
 - 自分の枠外にあった情報・状況認識の獲得
 - さらなる情報収集の必要性を自覚
 - 多様な考え方・価値観との出会い
 - 視点や発想を飛躍させる楽しさの実感
 - 自分なりの着眼点・課題意識の明確化 等

cf. 話し合いの2タイプ

- A 拡散型(アイデア出し・情報収集 等)
…とにかく量を重視!
- B 収束型(整理分析・まとめ 等)
…目的や相手、諸条件を考慮した根拠ある
(=質の高い)選択・順位付け

B

実践上のポイントの
具体化例

A

単元目標に迫るための
各過程実践上のポイント

生徒が、
単元の学びに対する
ポジティブなイメージを
もてるようにしよう

cf.
 ・どんな分野の、どんな状況に対して
 (それをどう感じたから)
 ・どのような人のために
 ・どんな変化を生み出していきたいか 等

個々の生徒が、
 自分が探究したい分野や
 解決策検討の方向性を
 明確にもてるようにしよう

京丹後市を
 「一番魅力ある町にする」ための
 アイデアをまとめ、
 伝えるべき相手を決めて発信しよう

【自ら設定した解決課題(Q)に対する自分なりのAを見つける】
 個々の生徒・集団の何を見取り、いつ、どんなサポートをする？

※デザイン思考の基本的な流れは、P14参照
 (学びの進捗状況によって、各プロセスを行きつ戻りつしてOK)
 ◇自分の設定課題の対象となる(関係する)人への「共感」の深さが、
 ①課題解決活動への意欲、②自己調整しながらの主体的な学び、
 ③発想の広がり等に大きく影響するので、特に、デザイン思考前半
 の個々の活動の充実は重要。(共感 → 明確な目的意識・相手意識に)
 (できる限り)生徒のニーズに応える人と出会う機会・具体的な体験
 機会の確保、出会う人との事前打ち合わせは大切なサポートとなる。
 ◇目指すのは、型にはまらない発想に、根拠と論理が加えられて1つ
 の形に具体化されたアイデア。
 でも、教員が着目するのは、個々の生徒が課題解決のプロセスや
 そこで必要となるスキルを適切に理解・活用しているか。
 不十分な部分が見られるときには、個別指導や全体でのシェア・確
 認を行い、個々の生徒にこうしたプロセスやスキルが汎用的な力と
 して定着するようサポートしていく。

伝える力・巻き込む力も
 問題解決能力の一部ととらえ、
 論理性と表現上の工夫がある
 プレゼンをもみなで目指そう



単元導入からの流れを大切に、
 一歩活動を進める必然性と
 それに取り組む意欲を
 もてるようにしよう

全員が「自分の」探究課題を見つける！

- ◇すぐに見つけれない時は…
 - ・単元導入からの活動を振り返る
 - ・情報を整理・分析し直す
 - ・ほしい情報を再収集する
 - ・互いの今の状況や迷いを交流
 など、適した探究の過程に戻りながら、あせらず考え、探し続ける。
- ◇「明確にできている」状態とは、
 「言語化できる」状態。
 決定までのプロセスの中で、アウト
 プットし合う機会・フィードバック
 を返し合う機会をつくることで、
 自分なりの着眼点や根拠、イメージ
 がよりクリアなものに。

一人ひとりの問題解決能力と
 協働性の発揮・伸長を目的に、
 生徒自らが考え、行動・協働・
 試行錯誤するプロセスを
 細やかに見取り、サポートしよう



型にハマらず発想する Think out of the box
 ひとまずやってみる Give it a try
 つまづくことで飛躍する Fail forward

出典：一般社団法人SKY Labo

プレゼンテーションは何のためにする？

- ◇プレゼンは、それぞれのアイデアを
 検討・改善していく過程の一部
 →プレゼンは、次の対話を生むための
 材料（直後のフィードバックが重要！）
- ◇プレゼンは、報告会ではなく、自らの
 理解者・仲間を増やすためのもの
 →単元が終われば、終わるアイデア？
 単元終了後も、そのアイデアが実際の
 暮らしや社会の中で具体化・発展され
 てほしい？
 <後者であれば、>
 ・何を目的に、誰に聞いてもらうかの
 検討が必要
 ・アイデアのインパクト、プロトタイプの
 提示、論理性、表現上の工夫が必要

【言語化・シェアによる学びの自覚化・波及】
このプロセスで教員がすべきことは？

- ◇とにかく発言・対話の量を増加させるための環境づくりとファシリテートを！
→言葉にするために、記憶が呼び起され、整理されるので、自分の学びの中で価値あるものを自覚・強化できる。
他者の言葉を聞くことで、自分にはなかった出会いや経験を疑似体験できる。同じ出会い・体験に対する違う見方・感じ方、対応方法等を獲得できる。
- ◇自由で、ゆったりとした交流の最後に、それぞれの学びから見出される共通点や相違点を全体で整理・共有する
※ここで整理したものは、個人での振り返り時に参照できるようにしておく。（ICTでも、教室掲示でも）

単元目標を柱に、
自分の変化・成長と
未来の自分についてのイメージを
整理できるようにしよう

学び交流会

振り返り

互いの学びのプロセスや
エピソード、感情を
自由に、ゆったり
シェアできるようにしよう

cf. 引き出したい発言・対話(例)

- ・私の印象に残っている言葉(体験)は～
- ・今回、よかったなと思うのは～
- ・今回、チャレンジできたのは～
- ・難しかった(しんどかった)のは～
みんなは、どうしてたの？ or
あれって、どういうこと？ or
もし次するなら(同じような場面になったら)～
- ・○○からこんなことを考えたんだけど～
どう思う？
- ・○○に対して◇◇ってアイデア考えたんだけど、
どう思う？もっとよくできないかな？ 等

問題解決能力の視点

地域への思いの視点

生き方・あり方の視点

単元目標



型にハマらず発想する
Think out of the box



ひとまずやってみる
Give it a try



出典：一般社団法人SKY Labo

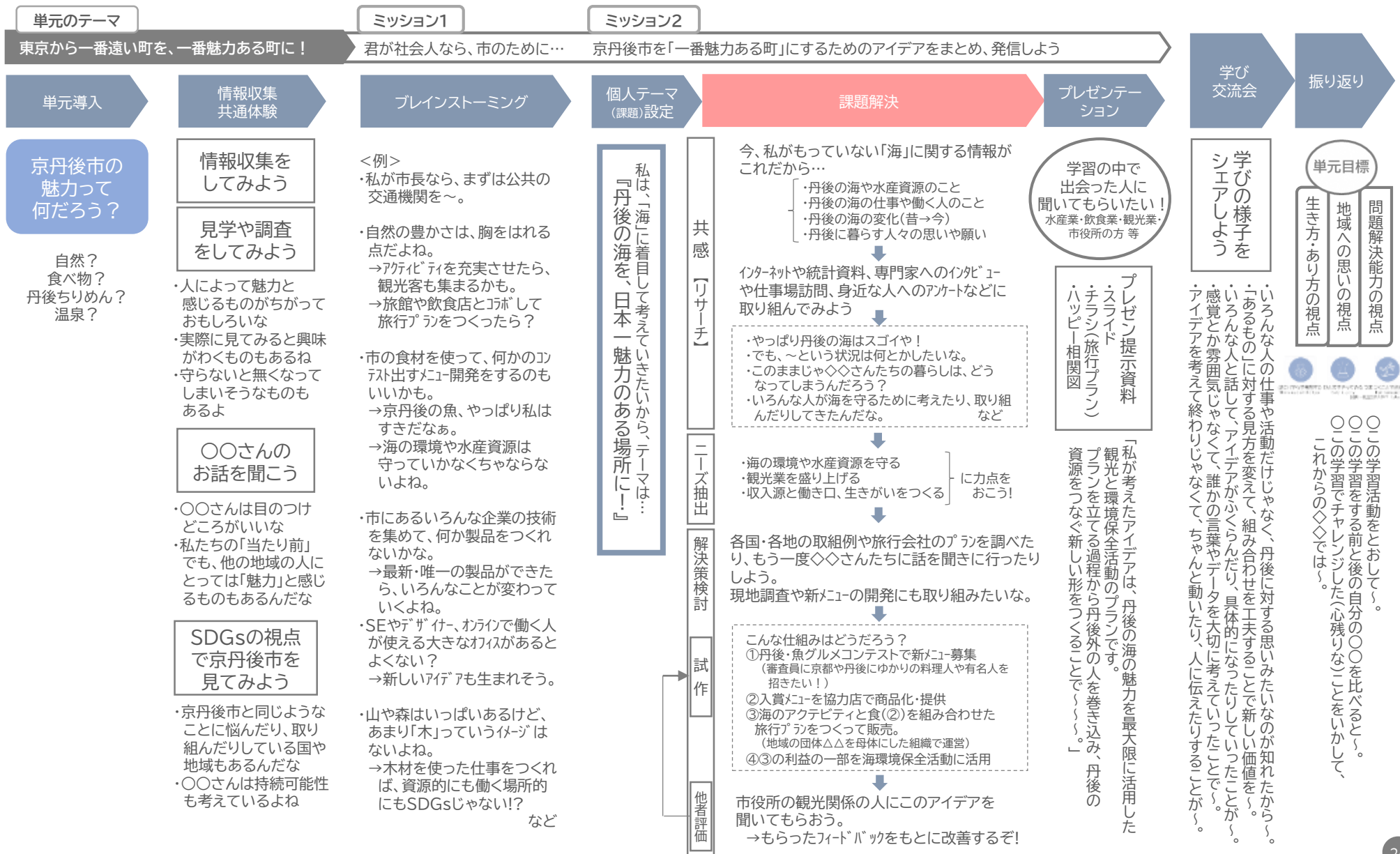
つまづくことで飛躍する
Fail forward

【ただひたすらに自己の「変化」と向き合う】

振り返りで注目すべきなのはどこ？

- ◇変化なき成長はない。
- ◇本単元は、上の3つの単元目標についての変化・成長を促すために各過程での活動があり、細やかな見取りにもとづいた指導と支援、環境づくりが行われた。【目標と指導と評価の一体化】
- ◇結果 < プロセス
できることをきちんと < 意図や目的意識をもったトライ
成功や失敗などの結果 < 自分で考え、行動したか

前ページまでのイメージで、単元の学習活動を進めた時に予想される生徒・学習集団の反応をまとめてみると…。





「令和5・6年度活用版」の計画例【再掲】

単元指導計画（例）

0～Ⅰ期前半（就学前・小学校2年生 「町たんけんから栽培活動へ」）

Ⅰ期後半（小学校3年生 「スーパーマーケットで働く人たちの困りごと・心配事の解決策を考えてみよう」）

Ⅱ期（小学校5年生 「地域の農業のよさや課題について考えてみよう」）

Ⅲ期（中学校3年生 「京丹後市の未来の姿を提案しよう」）

G 単元指導計画(例)③

～「令和5・6年度活用版」の計画例【再掲】～

(1) 0～I 期前半(就学前・小学校1・2年生「生活科」)

1 授業・活動対象 【小学校 2 年 (5歳児)】

2 扱う地域素材 地域の人・農業クラブ(農家)・商店



関連付けるSDGsの目標・ターゲット

【参考: 0期～I 期前半で活用できる「SDGs」資料

「SDGs」の目標や内容の理解は難しい発達段階であるが、日常生活の改善やI 期後半からの学習へのスムーズな導入につなげていくことを目的として、「分かりやすさ・楽しさ・自然な流れ」を大切に、「SDGs」という言葉やそのおおよその趣旨・内容を子ども達の学校園所での生活や活動、学習場面の中に意図的に取り入れていきたい。

<例1> 曲「ひろがれ！ いろとりどり」(NHK SDGsキャンペーンソング)
※NHK使用承諾・要

<例2> 「SDGs 17の目標」(作成:網野こども園)

- ① 貧困をなくそう …【みんなが笑顔で暮らせるようにしよう】
- ② 飢餓を0に …【「もったいない」をなくそう】
- ③ 全ての人に健康と福祉を …【みんなが元気に暮らせるようにしよう】
- ④ 質の高い教育をみんなに …【誰もが勉強できるようにしよう】
- ⑤ ジェンダー平等などを実現しよう …【みんな違って みんないい】
- ⑥ 安全な水とトイレを世界中に …【水を大切にしよう】
- ⑦ エネルギーをみんなに そしてクリーンに …【ゴミを分けよう リサイクル！】
- ⑧ 働きがいも経済成長も …【やる気いっぱい 元気いっぱい働こう】
- ⑨ 産業と技術革新の基盤をつくろう …【試して工夫して どんどんやってみよう】
- ⑩ 人や国の不平等をなくそう …【世界中のみんなと仲良くしよう】
- ⑪ 住み続けられるまちづくりを …【住みやすいまちをつくろう】
- ⑫ つくる責任 つかう責任 …【ものを大切にしよう】
- ⑬ 気候変動に具体的な対策を …【きれいな地球を守ろう】
- ⑭ 海の豊かさを守ろう …【海を汚さないようにしよう】
- ⑮ 陸の豊かさでも守ろう …【緑を増やそう】
- ⑯ 平和と公正をすべての人に …【みんなが安心して暮らせるようにしよう】
- ⑰ パートナリシップで目標を達成しよう …【みんなで力を合わせよう】

3 活動目標・単元目標 (活動の区切り・単元末で出現させたい幼児児童の姿)

- 学校や園の周りの様子(自然・施設・土地の使われ方)や人を知り、自らの心が動くものや自分たちの活動に協力してくれる人たちと積極的に関わろうとする。
- 様々な体験活動や人との関わりの中で、感じたことや気付いたことを素直に表現したり、人に伝えたりする。
- 身近な地域のよさを見つけたたり、地域で行う活動や人との関わりを楽しさを感じたりする。

4 活動・単元のテーマ

町たんけん から 栽培活動 へ (散歩・発展的な活動)

5 活動・単元構想のPoint !

- 幼児児童の意識として、「町たんけん・散歩」での偶然の出会いが、その後の活動・学習の出発点となるように活動・単元を構想する。
- 幼児児童の「何だろう？なぜだろう？」「やってみたい」「こんな人がいてくれたら」といった思いを引き出す仕掛けを工夫する。
また、そうした思いが幼児児童から表現される瞬間を細やかに見取り、活動を次の段階に進めたり、肯定的な評価・言葉掛けを幼児児童に返したりしていく。
- 就学前の活動と小学校生活科との内容的な類似性を活用して、児童が見通しや安心感をもって学習に取り組めるようにしつつ、目標や主となる内容の設定に系統性をもたせることで、活動や発表、表現などの質を確実に高めていく。

6 単元構想案・入学後の学びの充実につながる就学前の活動構想・実施時のポイント

＜O:活動内容 ※:留意点・注意事項＞	
小学校1・2年「生活科」	就学前(5歳児)
<1年生> がっこう たんけん に いこう！ 【導入】 ○学校探検へのワクワク感を高め、「みんなが楽しい」活動にするための約束・目標を話し合う。 ○「見たい・知りたい」場所や人、探検の方法などについて話し合う。 【学校探検① / 全体の共通体験】 ○話し合って決めた方法で学校探検を行う。 ○探検後の「発見・気づき・疑問」を交流する。 (決めた約束・目標の振り返りも行う。) ○交流した内容から、さらに詳しく知りたい場所や人を出し合う。 ○知りたい事柄ごとにグループを組み、探検②の計画を立てる。 【学校探検② / 少人数の探究的体験】 ○計画に沿って準備を進めた上で、校内の探検やインタビュー活動を行う。 ○探検②での「発見・気づき・解決できた疑問」について紹介し合う会を開く。 ○決めた約束・目標の振り返りと一人ひとりの感想発表を行う。	就学前の経験・学び・成長の上に 小「生活科」の学びを 積み上げる。 ・子ども達自身が学びの主体 ・体験・感受・発想・試行錯誤・ 表現の重視 ※保幼小の引継ぎ・連携が重要

【導入】

- 就学前の散歩や1年時の学校探検の経験を想起させながら、町探検へのワクワク感を高め、「みんなが安全で楽しい」活動にするための約束・目標を話し合う。
- 身近な町の自然や施設・人などについて知っていることを出し合い、「見たい・知りたい」場所や人について話し合う。

※児童のニーズや地域性を踏まえながら、複数コースを設定し、日程とともに、児童に提示する。

※そのうち1コースは、栽培活動につながる場所や施設、人との出会いがあるコース（事前の下見・協力者への依頼・調整 要）

【参考】栽培活動につながる仕掛け（例）

- ・元気に作物や植物が育つ畑や庭の横、地元野菜を販売している店の前を通るコースを設定
- ・畑や庭の持ち主に、探検の時間帯に作業をしてもらうよう依頼（児童との会話機会をつくる）
- ・地元野菜の販売店で、児童にその特徴やよさをアピールしてもらうよう依頼 など

【町たんけん】

- 各コースの探検前に、準備をする。

・探検の視点づくりをする。

- A 見たいこと・したいこと
- B 見てくべきこと（そのコースの特徴的なこと）
- C 出会えたら（話せたら）いいなと思う人

・安全面で注意すべき場所を話し合う。



- 探検の視点・安全面の注意箇所を意識して町探検をする。

※探検の視点や安全面の注意箇所が書かれたワークシートを用意する。

※探検中の「発見・気づき・疑問」を視覚的に記録したり、簡単な調べものをしていくように、iPad を持参する。

※偶発的な出会い・発見から起こる児童の好奇心・探究心を大切にできるように、活動時間はゆったり目に取っておく。

特に、様々な仕掛けをしたコースを回る際には、見学・体験・コミュニケーションの時間を確保しておく。

入学後の学びの充実につながる活動

～その構想・実施のポイント～

『散歩』を構想する際の2つの視点

園所の外に出て、様々な出会い・発見・体験ができる散歩。

その楽しさや学びをより大きくしていくために、以下のような2つの視点から活動を構想する。

A 偶発的な出会いや幼児の自由な発想・願いを子ども達とともに楽しみ、タイムリーに学びへとつなげていく散歩

B 育てたい姿や発展させていきたい活動、様々な行事・取組みと関連付けたテーマ設定をすることで、計画的に学びをつくっていく散歩

【参考】Bのテーマ（例）

- ・何人の人と挨拶できるかな？
- 【挨拶・コミュニケーション・数】
- ・青色（三角形）を見つけよう。
- 【色・（形・）ものの名前】
- ・お気に入りの石を見つけよう。
- 【伝え合い活動へ】

・こういう看板（交通標識）を何種類見つけられるかな？

【交通安全教室へ】

など

※AにはAの、BにはBの魅力・効果があるので、その時々での散歩の時期や位置付け、ねらいなどに応じて選択し、年間の中でバランスよく配置していく。

『散歩』中の関わり方

上記のAであれ、Bであれ、活動中の子ども達個々・集団に対する教職員の関わり方は、活動・経験の質を左右する非常に大きな要素の1つである。

- ① 活動中は、周りの様子や人への気づきを促す言葉掛けを細やかに行ったり、子ども達が反応・表現したことを十分に受け止め、共有したりすることを大切にする。

「すごいね。よく見つけたね。」

「ほんと、おもしろいね。」

「よく知っているね。」

「よく分かる説明だったよ。」

「これは、〇〇っていうんだよ。」など

気づきや表現への意欲向上・知識や言葉の獲得・

受容してもらえる安心感

※教員は、安全面の確保を最優先しつつも、可能な限り一人でも多くの子ども達と対話する場面をつくり、それぞれの活動の様子や気づき・アイデアの把握に努める。

また、学習のねらいに迫る・活動の質を高める発見や気づきがあった場合には、なるべくその時・その現場で全体確認・共有をする。

- 各コースの探検後に、「発見・気づき」の共有と約束・目標の振り返りをする。

※「発見・気づき」を共有する際は、「事実」と「気持ち」を分けて出し合う。

【参考】

→「事実」＝全員に出会わせたい身近な地域についての「知識」

→「気持ち」＝認めていきたい一人ひとりの「その子らしさ」
広げ、深めていきたい「価値ある学び・気づき・アイデア」

※共有した「発見・気づき」は、視覚的に整理し、いつでも活用できるようにする。（栽培活動に関わる「気づき・感動・要望」は、少し強調して表現しておく。）

※複数コースを設定して町探検に取り組む場合は、特に共有・振り返りの過程を重視し、次の探検を行う際の「発見・気づき」の質・安全な行動の質を高めていくようにする。

【表現】

- 「（地域名）のステキさ しょうかい会」の目的・招待する人・紹介内容・時間配分などについて話し合う。

※会の実施提案は教員から。

会の計画の主体は児童。（ただし、単元のねらいや実現の可能性を考慮し、教員がその検討・判断に適宜助言する。）

※学習集団外の第三者を招待する場合は、教員、もしくは、児童たち自身が正式に依頼・調整した後に確定し、招待状の作成を全員で分担して行うようにする。

- 自分が紹介したいコース（場所）を個人で選択した後、同じコースを選択した児童同士でグループを組む。

※同コースの選択人数が多い場合は分割。

- 「しょうかい会」の計画に沿って、グループで内容づくり・役割分担・発表道具づくり、練習を行う。

※目的意識・相手意識をもって活動に取り組んでいけるよう、各グループ・全体への声かけや助言・評価を意図的に行う。

※「事実」面の紹介で終わらず、その「事実（地域の場所・人・もの・暮らしなど）」に対して自分たちが抱いた「思いや願い・考え」の部分を見ていねいに見つめ、豊かに

② 言葉での「しましょう・しなさい」ではなく、継続的な子ども達の手本となる教職員の姿・行動で、子ども達を目標とする姿に近づける。

【例】

- ・気持ちのよい挨拶を進んでできる子どもに。
- ・様々な人との関わり・対話を楽しめる子どもに。
- ・何気ない物事に立ち止まり、感動したり、疑問をもったりできる子どもに。
- ・根気のいることや苦手なことにも、楽しさや目標を見つけられる子どもに。
- ・ルールや約束を守ろうとできる子どもに。 など



「まず先生が」「いつも先生は」の積み重ねで、行動・感情・表現・価値観などの「モデル」になる。

③ 入学後の「安全で主体的な校外学習」実施のためにも、その土台となる交通安全の指導は、日常的な活動の中で体験的・継続的に積み上げていく。

『散歩』と「ことば・表現」

「散歩」という活動は、非常にアクティブで創造的なものであるため、「ことば・表現」に関わる基礎的な力を高めたり、経験を積み上げたりする機会として最適な活動の1つである。



(1) 豊富なインプット場面

散歩中に子ども達は様々なものを目にし、体験し、考え、感じる。それらは全て人・もの・出来事・感情などに関わる「ことば」を獲得するチャンスであるとともに、感情を伴った経験の一つが誰かに「伝えたい」あるいは「伝える価値のある」エピソードとなる。

(2) 必然性のあるアウトプット場面

上記(1)のような視点を教職員がもって「散歩」に行った後は、子ども達はたくさん「ことば・エピソード」をもって園所に帰って来ている。園所に帰って来た後には、こうした子ども達の状態をフルに活用し、感動体験をもとにした新しい「ことば」の獲得を強化する活動や「エピソード」を表現し合う活動を設定していきたい。

町たんけん・散歩	表現していくことができるように指導・助言・価値付けを行う。 ○招待状を出した人を招き、「(地域名)のステキさ・しょうかい会」を開く。 ※招待した人には、事前に感想・コメントの評価などを依頼しておき、児童の学びの質の向上に協力してもらう。 【参考】依頼する感想・コメント・評価 (例) ・児童が達成感を感じられるような～ ・単元のねらいに沿った成長を自覚できるような～ ・「工夫・意図・努力」が聞き手に伝わったことを確認できるような～ ・地域への理解や思い、その一員である自覚を深められるような～ など 【まとめ】 ○単元のねらいに沿って振り返りを行う。 ※記述・口頭の選択は、書くことに関する学習状況・実態に応じて行う。 ＜例＞ ・活動(探検・発表)に関すること ・自分たちの暮らしや地域に関すること ・協力してくれた人に関すること	※「エピソード」が楽しいもので溢れる活動となることは目指すべき・喜ぶべき状態ではあるが、活動の中で抱いた「悲しい・さみしい・つらい・悔しい・腹が立った」などのネガティブな感情にも非常に大きな価値がある。 自分の内面に沸き起こってくる「この思い」を誰かに伝える活動・関わりを意図的に設定し、「ことば・表現」に置き換える力を積み上げていくことは、今、そして、将来的な心の安定・社会性の伸び・学力の向上につながる重要な教育活動である。
栽培活動	【導入】 ○「栽培活動につなげるコース」探検後の「発見・気づき」の共有場面で、下のような発言が出た時に、栽培活動への取組みを提案する。 【例】 ・○○さんの畑では、おいしそうなおひょうができていたよ。 ・○○さんのおうちのお花、きれいだったあ。 ・近くでとれた野菜を売っていたお店の人、(地域名)のおひょうが最高だって言っていたよ。 ・○○さんの畑でさせてもらったお手伝い、楽しかった！ ・私たちにもつくれるのかなあ。育ててみたいなあ。 →「T「じゃあ、育ててみる？」」 ・でも、育てたことないよ。育て方、知らないよ。 ・本とかで、調べればいいんじゃない？ ・○○さんに教えてもらえば、上手にできるんじゃない？ →「T「じゃあ、頼んでみる？」」 ○栽培する作物・植物と栽培する場所について話し合う。 ※実際に栽培活動を行う時期と児童が選択する作物・植物の栽培に適した時期には注意する。 ※栽培の目的や上手に栽培できた時のゴールも話し合っておき、栽培活動への意欲をもてる(持続させる)ようにする。 【例・作物】 試食会・給食の材料として提供・家庭で味わう・○○へのプレゼント 【例・植物】 学校や学級を飾る・栽培アルバム・植物図鑑・○○へのプレゼント など	『散歩』中のつづきやが次の活動に進む 「散歩」を出発点にした連続的・発展的な活動を構想・計画していても、次の活動に移るタイミングは教職員ではなく、子ども達のタイミングでありたい。 【例】 ・田植えの風景 → 感触遊び(砂・泥・水) ・山や森のいろいろな緑への気づき → 色づくり → ジュース屋さんごっこ ・拾い集めた木の葉・木の実 → ごっこ遊び → おもちゃづくり → ゲーム遊び → 料理づくり → レストランごっこ → 仮面づくり → ファッションショー 例えば、上記の「田植え」なら、教職員からの「どろんこ遊びしてみよう？」ではなく、子ども達の「どろんこヌルヌル、気持ちよさそう。」「なんか歩きにくそう。」「冷たいのかな？」というつぶやきをキャッチしてから、教職員は「やってみよう？」「触ってみよう？」「入ってみよう？」と言葉を掛ける。 ※そうしたつぶやきを引き出す仕掛け・関わりを意図的にすることが大切である。

栽培活動	【栽培前の活動】 ○これまでの生活経験をもとに、選択した作物・植物の栽培に必要な・大切だと思うことを話し合せて、整理する。 ※児童のニーズがあれば、本などを使って調べたことを追加する。 ○「○○づくり名人」として児童が希望した人をゲストティーチャーに招き、自分たちが考え、整理した「育て方」を聞いてもらう。 ※「それでよい」という部分は、「よく知っているね。よく調べたね。」と十分に認めてもらいつつ、「名人」としてのコツや栽培に利用していきたい地域の自然環境のよさについて教えてもらうよう、事前の打ち合わせで依頼する。 特別な道具や技法がある場合には、実際にやってみせてもらう・体験させてもらう場面も設定してもらえよう依頼・準備しておきたい。 【栽培活動】 ○自分たちで整理したこと・名人に教えてもらったことを生かして栽培活動に取り組む。 ※可能なら、時々、名人さんに栽培活動の様子や生長の様子を見てもらったり、一緒に作業してもらったりする機会を設定する。 ○栽培活動に取り組みながら、(A)育てている作物・植物の生長の様子・変化に注目する活動や、(B)栽培活動への取り組み方を振り返る活動を定期的に実施していく。 【参考】活動(例)と活動のねらい (A)・今週の生長記録カード ・栽培カレンダー(時期・育て方と生長の様子) ・終わりの会などでの今日の発見・気づき紹介 ※「物事の見つけ方」を学ぶ経験を積み上げ、「目的や視点に沿って物事を見る目」や「変化に気づく目」を育てる。 (B) ※みんなで決めたこと(役割・作業内容など)を一人ひとりが責任をもってやり切ることの重要性を実感したり、「命」を大切にすることへの考えを深めたりできる活動を設定する。 ○栽培活動の区切りの活動(栽培活動の導入時に話し合った栽培の目的・ゴール)に取り組む。 ※自分たちが継続的に栽培活動に取り組んできたことへの達成感や、力を貸してくれた協力者の方への感謝を感じられるような活動設定・雰囲気づくりに努める。 ※活動時に学級集団外の人を招く場合は、事前の連絡・調整を細やかに先行しながら、適宜、児童による活動を設定する。 【まとめ・表現】 ○単元のねらいに沿って振り返りを行う。 ※記述・口頭の選択は、書くことに関する学習状況・実態に応じて行う。 ＜例＞ ①活動(栽培・収穫・その後の活動)に関すること ②自分たちの暮らしや地域に関すること ③協力してくれた人に関すること
------	--

最初は、教職員の仕掛け・言葉掛けが必要であったり、子ども達の反応・気づき・表現があるまでに時間がかかったりすることがあるかもしれない。しかし、《次の活動に移る扉の鍵は、子ども達に渡す。》そのことが、 ・活動の主体者は自分たちだ ・自分の声を先生や友達に聞いてくれる ・いろいろな気づきやアイデアを出し合える活動は楽しい といった意識を高め、一人ひとりの内面に活動への意欲や主体性・創造性・協働性などの芽を育むことにつながり、入学後の「生活科」や「総合的な学習の時間」をはじめとする学習の充実の土台となる。 『散歩』などの活動時の記録と振り返り 「散歩」をはじめとする活動は、ねらいをもって活動を構想し、事前の環境構成をすること、そして、そのねらいに沿って子ども達の活動を援助しつつ、その様子を細やかに記録し、教職員間の共有・活動評価に活用していくことが大切である。 【例】京丹後の四季を感じさせる散歩 ＜環境構成＞ ・今の季節の特徴がよく出ている場所を通ろう。 ・四季の様子を比較できるように、同じコースを通る散歩を年間4回設定しよう。 ・多くのひと「季節」に関する話ができるよう、事前に保護者や地域のひとに散歩のねらいやコース、積極的な言葉掛けの依頼を発信しておこう。 ・自然のもので遊べる場所があるところを休憩場所にしよう。 など ＜活動中の援助＞ ・身近な地域にある「その季節ならではのもの」をたくさん見て、触れて、知れるようにしよう。 ・京丹後の四季の変化にたくさん気づいたり、感じたり、疑問をもったりできるようにしよう。 ・友達や地域のひととたくさん季節や自然について話したり、遊んだり、体験したりできるようにしよう。 など ＜活動中の見取り＞ 上記のねらいや支援内容に沿った子ども達のつぶやきや行動、他者との関わり、試行錯誤を積極的に見つけていく。 ※その評価の内容や対象児、活動の様子などに合わせて、評価を返すタイミングは考える。(即時・肯定的を基本としつつも、時に様子を見守り、子ども達の集中・没頭を妨げないようにすることも必要である。) ＜活動の記録＞ 活動時の子どもの気づき・つぶやきを日常的に記録していき、組織的に蓄積していく。 (例)日時／子どもの気づき・つぶやき／写真 他児の表情・反応・やり取り など ＜活動記録の活用＞ A 活動の概要(ねらい・内容)や子ども達の気づき・つぶやきを添えた写真を園所内に掲示し、子ども達が学びを共有したり、次の活動へのステップとしたりするとともに、保護者などへの発信ツールとして利用する。 B 教職員間での活動評価、及び、次の活動構想に利用する。 ※子ども個々の思いや考えに寄り添った主体性を引き出す関わりや援助ができた。
--

G 単元指導計画(例)③

～「令和5・6年度活用版」の計画例【再掲】～

(2) I 期後半(小学校3・4年生)

1 授業学年 【 小学校 3 年 】

2 扱う地域素材 地域の第一次産業(農協・漁協含む)・小売店・行政の関係部署 など

関連付ける(関連付く可能性のある)SDGsの目標・ターゲット

12-3(食料廃棄量の削減) / 12-b(雇用創出・地方の産品の販売) など

3 単元目標(単元末で出現させたい児童の姿)

- 身近な生活場面における地域の具体的な課題を知り、特色やよさを活用しながら、その解決策を考え、目的をもって行動化したり、発信したりする。
- 自分たちの消費生活に関わる地域課題を体験的・探究的に学ば中で、地域のために働いたり、工夫したりしている人の存在を共感的に受け止めるとともに、自らの今後の生活の仕方について考えを深める。

4 探究の大テーマ(解決課題)

地域や私たちの生活には、どんな問題がひそんでいるのだろう？
～スーパーマーケットで働く人たちの困りごと・心配事の解決策を考えてみよう～

5 活動・単元構想のPoint !

- 3年生の社会科で学習する「スーパーマーケット」の学習を課題設定の出発点にする。
※社会科の見学・インタビューの際に、「困っていること、問題だな・何とかしたいな」と思っておられることを聞いておく。
- 解決を目指す課題の選択・決定は、個人を基本としつつ、必要に応じてゆるやかなグループを編成する。
- 児童の既知数・活動の様子に合わせ、SDGsについての学習機会を設定する。
- 各グループ(個人)の必要に応じて、教室を飛び出せる体制整備と協力者との連絡調整を細やかに、かつ、タイムリーに行う。

6 単元構想案

<※:留意点・注意事項>

探究の過程	学習活動	指導上の留意点・工夫点	備考(評価含む)
社会科の教科学習(情報収集)	スーパーマーケットの商品や販売の工夫、働く人の思いなどを学習。	見学・インタビュー実施の際、教科の学習内容に加え、店員さんの困り事・心配事・不安感などについても情報収集しておく。	社会科の目標・評価基準に準ずる。
単元導入	○社会科の学習を振り返り、店員さんの抱く「課題」について思い出す。	・自分たちの学習に協力してくれた人たちの「課題」を何とかしてあげたい・自分たちの生活に潜む「課題」を何とかしたいという思い・目的意識を十分に膨らませる。	
	○店員さんの抱く一つ一つの「課題」について話し合う。 (必要に応じて情報収集活動や整理・分析活動も入れながら、その課題の深刻度や要因について考えていく。)	・話し合い活動をととして、一つ一つの課題の意味理解を深めたり、解決策を考える価値を実感したりできるようにする。 ※話し合いの内容と絡めながら、SDGsに関する基礎学習・「課題」に関連するSDGsの目標などについての学習を入れる。	身近な生活場面における地域の具体的な課題を理解している。 【知技】 ・話し合い活動の様子 ・テーマ選択の理由
	○整理した課題の中から、自分(たち)が解決策を考えるテーマを選ぶ。	・全体で話し合った内容が個々の選択・判断の参考になるように、板書や掲示の仕方を工夫する。	
【参考】テーマ設定のバリエーション A:店員さんから聞いたことそれぞれを改善課題とする 例 売れ残った商品は、捨てなくちゃいけないくて… 売上げが減って、閉店する店も出てきていて… 外国産の商品は、その時々によって値段が上がったり、仕入れられなくなったりすることがあって… → フードロス問題解決チーム → 売上げアップ応援チーム → 地産地消拡大チーム など B:店員さんから聞いた中の1つを全体での改善課題とする 例 売上げが減って、閉店する店も出てきていて… ↓ 地域にあるいろいろなお店を元気にしよう!! ※特定の店のみを対象としない配慮は必要。 地産地消・伝統食 特産品・商品開発 人口増加・地域活性 買い物支援			
課題設定			
○選択した課題を、達成ゴールが示された言葉に表す。	例	・特産品を使った新商品を創り出そう。 ・店に来なくても買える方法を考えよう。	

課題探究 (問題解決)	○各グループ(個人)単位で、活動計画を立て、選択した課題の解決策を見いだす活動に取り組む。 ※どの時間に、どの「探究の過程」に取り組むかは、各グループ(個人)の計画や活動の進捗状況による。 ※情報収集の過程や考えた解決策の効果を検証する過程などでは、必要に応じて地域に出て、体験的に学ぶ機会をつくる。 ※①およその進捗状況を揃える、②「探究の各過程」に関わるよい方法を全体で共有する、③互いの活動内容やアイデア、悩みなどに対して評価・助言し合うなどができるよう、定期的に「活動報告会」を行う。 ○各グループ(個人)の第1次の解決策ができた時点で、学級外部の人に対して自分たちのアイデアをプレゼンし、感想・評価をもらう。 ○もらった評価をもとに、改良版の解決策をまとめる。 ○まとめの表現活動に向けて、自分(たち)の解決策の紹介の仕方やメッセージの伝え方を考え、準備・練習をする。 (内容・方法・役割など)	・テーマ決定後は、全ての活動過程で「何のため(目的)」と「誰のため(相手)」を意識させる。 ・「情報収集」「整理分析」「まとめ(解決策づくり)」の各過程は、1サイクルではなく、行きつ戻りつ行えるようにする。 →弾力的・臨機応変な計画立案・活動の実施ができるような単元全体の流れ(目安の設定時間数含む)の事前提示が必要。 ・指導者は、各グループ(個人)の活動場所や活動内容に対応できる環境・体制整備と学級外部との連絡調整を適宜行っていく。 →各グループ(個人)の計画やニーズ、活動状況の細やかな把握・児童との対話が必要。 ・各学園・学校で設定されている「情報収集や整理・分析」の方法などに関する学年の指導内容・目標があれば、その活動前に全体に指導しておく。 ・学級外部の人とは、他学級児童・他学年児童・学校教職員・課題を与えてくれたお店の人・保護者など。 ・学級外の第三者からの感想・評価は、解決策の「目的」と「相手」を踏まえた声をもらえるようにする。 ・表現活動に関する条件(時・場・聞き手・時間・およその内容構成など)は、事前に伝えておく。 ・各学園・学校で設定されている「表現」の方法などに関する学年の指導内容・目標があれば、活動前に全体に指導しておく。 ・他教科での既習事項(国語科の言語事項や社会科の資料活用、図工科の色の学習など)を意識・活用しながら内容検討や資料づくりに取り組めるようにする。	自分たちの消費生活に関わる地域課題を体験的・探究的に学び、自分らしい解決策を見いだそうとしている。 【学向力】 ・行動観察 ・振り返りカード ・活動報告会 特色やよさを活用しながら、地域の課題に対する解決策を考え、目的をもって行動化したり、発信内容や方法を考えたりしている。 【思判表】 ・行動観察 ・プレゼンテーション
----------------	---	---	---

表現	○設定した課題に関わる「目的」と「相手」に合わせた学級外部の人を招き、「課題解決策提案会」を開く。	・各グループ(個人)が考えた解決策を実現・拡散・浸透させていくためには、「誰に」聞いてもらう必要があるのかを見直しと考え、上記の表現の準備・練習の活動と並行して、聞き手を招待するための活動を進めておく。	
まとめ	○学習の振り返りをする。 ①個人での振り返り 【印象的なことを中心に、項目設定なしのフリー記述】 ②学級での振り返り 【発表・話し合いでの交流】 ③個人での振り返り 【「丹後学」としての単元のねらい+「総合的な学習の時間」の目標に関わる設定項目に対して記述】	・②では、出てきた意見・思いを構造化して板書(掲示)し、個々の学び・成長・思いの深まりを全体に広げるとともに、③の記述内容につながっていくようにする。	地域のために働いたり、工夫したりしている人の存在を共感的に受け止めるとともに、自らの今後の生活の仕方について考えを深めている。 【史料】 ・振り返りの記述・交流内容

G 単元指導計画(例)③

～「令和5・6年度活用版」の計画例【再掲】～

(3) II期(小学校5・6年生・中学校1年生)

1 授業学年 【 小学校 5 年 】

2 扱う地域素材

米作農家 ・ JA ・ 行政の関係部署 など

関連付ける(関連付く可能性のある)SDGsの目標・ターゲット

12-b(雇用創出・地方の産品の販売)
6-6(山や森林などの水に関わる生態系の保護) / 15-1・2(森林などの保全)

3 単元目標 (単元末で出現させたい児童の姿)

- 地域の自然環境を生かした丹後の稲作の特徴やよさ、それに携わる人々の思いや工夫を知る。
- 地域の農業が抱える課題の解決のために、自分たちができることを考え、実践する中で、地域への愛着や自己の生き方に対する考えを深める。

4 探究の大テーマ(解決課題)

私たちが暮らす地域の特色って何だろう？
～地域の農業のよさや課題について考えてみよう～

5 活動・単元構想のPoint！

- 教師自身が地域に足を運び、地域の人・もの・ことと関わることで、その特色を、実感を伴って理解することを大切にする。
- 児童たち自身が主体となり、課題発見・探究を行っていく学習活動を重視する。
- 単元を構想する際には、教師としてのねらい(目指す児童の姿)と予想される児童の反応(思いや発言)の両面から学習活動に取り組む児童の姿をイメージし、教師のねらいと児童の主体性の両方が自然な流れで統合される学習展開となるよう創意工夫する。【Story】また、単元学習開始後は、設定した単元のねらい(目指す児童の姿)を常に意識し、判断根拠しながら、児童の思いや発想が最大限反映された学習活動となっていくよう、臨機応変に判断・対応していく。
- 情報収集や課題解決過程の充実を図るため、地域の人材の確保、及び、学習活動への協力依頼時の連絡・調整を細やかに行う。
- 課題解決やまとめ・表現(発信)の過程での活動に、目的意識や相手意識をもって取り組んでいくことができるよう、必要な指導・支援、及び、環境や教材の整備を行う。

6 単元構想案

<※:留意点・注意事項>

探究の過程	学習活動	指導上の留意点・工夫点	備考(評価含む)
単元導入 ・ 課題設定①	○自分たちが暮らす地域の特色について話し合う。 【参考】課題設定につながる共通体験(情報収集活動) ① 学習集団全体で、「地域の特色」を問うアンケートやインタビュー活動を実施 (例) アンケート1位「丹後米・稲作」・2位「丹後ちりめん」 ② ①の結果と自分たちの認識のズレから生まれる疑問を出し合う。 (例)「丹後ちりめんだと思っていたのに」「丹後のお米や米作りって、本当に有名なの?」「●位の“ブナ林”って、何だ?」 ③ 出てきた疑問を解決するための方法を話し合い、情報収集活動に取り組む。 (例)ゲストティーチャーの招聘 … 市の農業振興課職員 など ④ ③で獲得・共有した基礎情報をもとに、学習集団全体での探究課題を決める。 ➡ 丹後のお米や米づくりについて、もっと詳しく調べてみようよ!	・学習集団や児童個々の「地域に対する理解度」や生活・学習経験を把握する。 ・理解度が低く、主体的な課題設定が難しい場合には、身近な人を対象とした調査活動を入れることで、児童が納得感や必然性を感じられる探究課題の焦点化・設定を行う。	
課題設定②	丹後のお米や米づくりについて調べよう ○個別の探究課題を設定する。 → 個別で考える時間 → 全体で交流する時間 → 個別の探究課題(第1次)を確定する時間 ・課題設定前の共通体験(例.アンケートや農業振興課の出前授業)で得た情報・知識をもとに考えたり、全体で交流する時間を設定したりすることで、個々がより主体的に課題設定をしていくことができるようにする。 <個別の設定探究課題例> ・おいしい米づくりをされている農家さんの工夫や思いが知りたいな。 ・五十河のブナ林から流れる川が本当にきれいなのか実際に行って見たいな。 ・本当に五十河の米がおいしいのか食味検査がしたいな。 ・特Aを西日本で一番とっている丹後の米は、有名なのを知りたいな など	共通体験で得た情報をもとに、自分が探究したいテーマを決めようとしている。 【学向力】 ・行動観察 ・ワークシート	
課題探究 (問題解決)	○設定した自らの探究課題の学習計画を立てる。 ○各自の学習計画を交流し、学習集団全体で行う活動の内容を決める。	・計画の内容としては、「何を、どこで、どんな方法で調べるか」を考えるようにし、課題探究の各過程に自分なりの目的をもって取り組むことができるようにする。 ・単元の大テーマに関わる内容や、多数の児童の計画・ニーズに挙げられた内容は、学習集団全体で行う共通の探究活動として位置付ける。	自らの設定課題に応じ、必要・有効と考えられることを考え、探究過程の内容や方法に見直しをもっている。 【思考力】 ・活動計画表

課題探究 (問題解決)	6 体験活動 15 環境学習 【参考】課題探究過程での共通体験(体験活動・情報収集活動) ○地域の農家の見学・インタビュー活動 ※見学時の視点やインタビューしたい質問項目は、個別の設定課題に応じたものとする。 ○地域の農家の方の出前授業 ※共通性の高い内容は全体に対しての講義で、個別性の高い内容は質疑応答で対応する。 ← 教員による細やかな児童の計画・ニーズの把握と、協力依頼先とのていねいな打ち合わせが必要。 ○五十河のブナ林・竹野川(源流)の散策・調査活動 ※市の生活環境課の「森林環境保全学習」事業の活用も可能 ※ブナ林のもつ「緑のダム」の働き/指標生物による竹野川(源流)の水質調査 ○お米の食べ比べ体験	○個別と全体の計画に沿って、児童個々が課題探究活動に取り組む。 ① 体験・情報収集活動 ※全体での共通体験と個別での情報収集活動を組み合わせた形で進める。 ② 整理・分析活動 ※集めた知識・情報を整理・分析する中で、その不足を感じた場合、あるいは、新たな疑問(探究課題(2次))が生じた場合は、①の過程に戻る。	・全体の計画を確認した後は、単元全体の見通しがもてるよう、流れや各過程の目安の設定時数を提示する。 ・各活動後、得た知識や情報とそこから考えたことに加え、選択した方法の効果などを振り返ることにより、児童個々が自らの活動の進捗状況を把握できるようにするとともに、基礎的な情報活用能力の定着・向上を図る。 ・児童個々の情報収集活動の充実を図るためにも、振り返りなどをととした細やかな各児童の進捗状況の把握と相談・助言が重要。 ・情報収集で活用したワークシートやメモ、入手した資料などは、いつでも参照・活用できるようファイル化しておく。 ・児童から引き出したい思いや考えに合った思考ツールを活用する。 ・児童の思考・気づきが「地域の農業に関する課題」につながっていったときには、可能な範囲で「SDGs」に関する学習機会を設けながら、「自分が考える理想的な姿・その実現方策・今の自分ができること」などについて考えていくように促す。 自らの設定課題に応じた、体験的・探究的に学びを進めようとしている。 【学向力】 ・行動観察 ・振り返りの内容 共通体験や個別の活動をととして収集した情報の内容や意味を理解し、適切に整理・分類したり、分析に活用したりしている。 【知技】 ・行動観察 ・振り返りの内容
表現	○個別の課題探究の方向性・成果に応じて、「行動化・発信」活動に取り組む。	・各児童が選択する発信などの目的によってその対象や方法は異なるので、できる限り児童のニーズに応えていけるよう、多様な方法を準備すると共に、校内外の環境・体制整備を進める。	

表現	6 体験活動 15 環境学習 10 表現活動 【参考】「行動化」… 自らが考えた課題解決策を実際にやってみること <例> ○対象とする人に伝えたいメッセージをポスターに表現し、目的に合った各所と交渉してポスターを掲示してもらう。(パンフレットの場合は、設置を依頼) ○質の高い稲作の条件となる自然環境を守るため、ブナ林の保全活動に参加したり、竹野川(源流)の清掃活動を実施したりする。 ○高齢・人員不足などで農作業が困難となっている農家でのボランティア活動に取り組む。 ○丹後米のよさをPRするためのCM(動画・音声)を作成し、市や関係機関と交渉して各周知媒体で流してもらう。 ○学習集団外の(発信の目的に沿った)第三者を招き、プレゼンテーションを行う。 → 自己有用感や社会参画意識など、自己の生き方と結び付く学習活動とするためにも、第三者を巻き込んだ活動や継続的な活動にしたり、実施後にその効果を検証する活動(第三者評価の集約など)を取り入れたりできるとよい。	※学習集団外の第三者との活動や発信を企画した際には、学習集団全体でプレゼンテーションなどを行い、目的や相手に合った活動・発信となるよう相互評価・助言の機会を設ける。(「探究の過程(課題発見→改善)」の設定) 課題の探究・解決のために必要な活動内容を考え、目的・相手意識をもって行動・発信する。 【思考表】 ・行動観察 ・報告内容
まとめ	○「活動報告会」を行い、互いの学習の様子や成果を交流・共有する。 【参考】課題探究活動の振り返り項目(例)とその設定意図 ① 探究課題・解決課題としたことは何か。 → その子の関心・課題意識の中心となったものは何かをつかむ。 ② なぜ、それを自身のテーマとしたか。 → 共通体験や情報収集過程で得た情報の量とその理解度をつかむ。 ③ どのような過程・方法で、探究・問題解決活動を進めていったか。 → 目的達成のための論理的な計画力・方法選択力・思考力、自由な発想、将来につながる他者との関係構築力・行動力などの有無・伸びをつかむ。 ④ この学習をとおして、自分自身が「変化・成長した」と感じることは何か。 ⑤ 学習を終えた今、誰かに伝えたい・届けたいメッセージ → (④・⑤)学習をとおして、地域や設定テーマに関する理解や思いの深まり、情報活用スキルや思考力・表現力の高まりの様子をつかむ。	・共通体験の中でも生まれる個々の学び・感じ方の違いや、個別の課題設定によって生まれる個々の学びの違いを統合する場を設定することをとおして、「一人」の学びを「みんな」の学びにしていけることができるように「活動報告会」を行う。 ・振り返りの内容は、「丹後学」の2つのねらい(地域への誇りと愛着/自己の生き方・在り方)に対する個々の児童の内面的な変容が見取れる内容とする。 地域の農業が抱える課題の解決のために自分たちができようことを考え、実践する中で、地域への理解や愛着、自己の生き方に対する考えを深める。 【思考表】 ・報告・交流内容 ・振り返りの記録

G 単元指導計画(例)③

～「令和5・6年度活用版」の計画例【再掲】～

(4) Ⅲ期(中学校2・3年生)

1 授業学年 【 中学校 3 年 】

2 扱う地域素材

福祉施設各所 (高齢者・障害者・幼児)

関連付ける(関連付く可能性のある)SDGsの目標・ターゲット

目標4(質の高い教育をみんなに) 目標5(ジェンダー平等を実現しよう)
目標8(働きがいも経済成長も) 目標10(人や国の不平等をなくそう)
目標11(住み続けられるまちづくりを) 目標16(平和と公正をすべての人に)

3 単元目標 (単元末で出現させたい生徒の姿)

- 地域で暮らす人・働く人と直接的に関わる体験をとおして、京丹後市における福祉※1の現状やそこに関わる人々の思い・願いを知り、改善すべき課題と残すべき・伸ばすべきよさを見いだす。 (※1 児童福祉・障害者福祉・高齢者福祉)
- 「すべての人に優しいまち」の実現に向けて、地域資源の活用の仕方・組み合わせ方を工夫し、自由な発想で地域課題の具体的な改善策を構想する。
- 地域で暮らす人々の存在や思いへの意識をもちながら、目指すべきまちの姿を構想する活動をおとして、実現したい自分の将来の姿を明確にイメージしたり、社会参画への意欲を高めたりする。

4 探究の大テーマ(解決課題)

「すべての人に優しいまち」って、どんなまち？
～京丹後市の未来の姿を提案しよう～

5 活動・単元構想のPoint !

- 自分たちが暮らすまちの現在と未来を見つめる視点として、「人権・福祉」を柱とする。
- 実感を伴った情報収集・現状把握ができるよう、体験活動やゲストティーチャーを招いた授業を積極的に設定する。
- 単元前半の体験的な学びの機会をとおして知った地域の課題やよさ、暮らす人々の思いを出発点に、これまでの学習・生活経験を生かしながら「目指すべきまちの姿」について構想する。
※「まち」の構想過程では、①目的意識・相手意識をもって構想すること、②発想の自由さと客観性の両方のバランスを取ることの2点を大切にす。
- グループ活動では、「個」の自由な発想と「対話」の効果が最大限発揮されているかを見取り、必要な支援を細やかに行う。

6 単元構想案

<※:留意点・注意事項>

探究の過程	学習活動	指導上の留意点・工夫点	備考(評価含む)
単元導入	○京丹後市のイメージや「将来、こんなまちになってほしい」という思い・願いを交流する。 ○オリエンテーションで学習の概要を知る。 ・学習の目的・ゴール ・大まかな流れ・時数 ・学習形態	・交流の過程では、素直な思いが出し合える雰囲気大切に、以下の2点をねらいに交流する。 ①テーマとなる「まち・人」への意識付け ②学習前の市に対する理解度・イメージ・思いの把握 ・市政情報や市のビジョンなども基礎情報として提示し、イメージと実際の姿を比較できるようにする。 ・交流時に生徒から出された願いのいくつかを取り上げたり、東ねたりしながらテーマである「全てのの人に優しいまち」の提示につなげたい。	※学習後の変容をつかむデータとして記録しておく。
課題設定につながる情報収集	○福祉に携わる方・専門家から、市(地域)の経過や現状・将来予想についての話を聞く。 ○「認知症サポーター養成講座」を受講し、高齢者の課題やサポートの仕方を学ぶ。 ※市・担当部署に依頼 ○福祉体験の目的や内容を知り、体験先を選択する。 ○体験先の決定後、体験先グループ別会議を行い、体験計画を立てる。 ① 体験先に連絡を取り、体験内容や留意点を聞くとともに、自分たちの要望を伝える。 ② 体験期間中の目標や収集したい情報の内容・方法などについて話し合う。 ○各体験先に分かれ、2日間の福祉体験に取り組む。	・「共通体験①」として、ゲストティーチャーによる講演会を実施。 ※将来予想の部分は、生徒が構想する「〇年後のまち」とそろえた時期で話していたけよう、事前に打ち合わせる。 ・「共通体験②」として実施。 ※2つの「共通体験」をとおして探究・課題解決の基礎となる情報・知識・体験を揃える。 ・事前に、体験学習に協力してくださる福祉施設に依頼・連携をしておく。 ・福祉体験は、講話・業務体験・インタビューなどで構成し、その分野の市の現状(変化・課題)や各施設の従業員・利用者の思い・困り感(ニーズ)を知る・理解することを目的とする。 ・体験先への訪問を基本としつつ、状況によってはオンラインなども活用して、直接生徒が体験先の方と対話できるように依頼時の調整を細やかに行っておく。 ・1日目終了後のグループ別での振り返り活動と体験先からの情報収集をていねいに行い、2日目の活動の充実につなげる。	2つの共通体験をとおして、市の現状や福祉の具体、及び、現在や将来の自分との関わりについて理解している。 【知技】 ・行動観察 ・振り返りカード

情報の整理・分析	○福祉体験の実施後、体験先グループ別会議を行う。 ① 集めた情報を整理する。 ② 整理した情報をもとに、印象的だった経験や言葉、感じたり、考えたりしたことを交流する。 ③ 体験先に関わる課題について話し合う。	・付箋やタブレットなどを活用して整理する。 ・色分け・形分けするなど、集めた情報と感じたことが視覚的に分別できるようにする。 ・感じたことの中から課題に関する意見を出し合い、共有する。	
課題探究(問題解決)	「全ての人に優しいまち」をテーマに、京丹後市の未来の姿を提案しよう ○グループで考えていくまちのイメージや改善課題について話し合う。 ○目指すまちの具体化に向けて、情報収集や調査を行う。 【参考】情報収集・調査の内容(例) ・目指すまちのイメージは、本当に対象として設定した人々が必要としているものか。 ・目指すまちのイメージを具体化した先例はあるか。あれば、それを越えるものになっているか。 ・目指すまちが実現すれば、どのような効果・変化が生まれるか。 ・目指すまちの具体化に活用できる技術や仕組み、法令、プロジェクト研究結果などはあるか。 ○目指すまちを具体化する様々なアイデアを出し合い、1つの案としてまとめる。 ○グループ間(・学級全体)で中間交流会を行い、互いのアイデアを紹介・評価・助言し合う。 ○他グループからの評価・助言をもとに、目指す町の具体化案を修正・補強する。	・必要に応じて、以後の学習の目的や内容・ゴールなどについて再確認する。 ・以後のグループは、可能な限り、異なる福祉を体験した3～4人の編成とする。 ・各体験先で集めた情報や課題だと感じたことを出し合いながら、「誰にとって」「どんな優しさ」があるまちを目指していくのか、なるべく具体的なイメージを固めていくようにする。 これまでの体験的な学習や生活経験を踏まえ、地域の改善課題を明確にし、その改善の方向性を見つけようとしている。 【学習力】 ・行動観察 ・ワークシート 	これまでに体験的な学習や生活経験を踏まえ、地域の改善課題を明確にし、その改善の方向性を見つけようとしている。 【学習力】 ・行動観察 ・ワークシート 収集した情報や課題、他者からの助言などから、「全ての人に優しいまち」の姿のイメージを具体化している。 【思考力】 ・行動観察 ・アイデアメモ

	○まとめの表現活動に向けて、自分(たち)の「京丹後市の未来の姿」を提案する内容や方法、役割分担を考え、準備・練習をする。 【参考】提案の構成(例) ① 本単元の共通体験・福祉体験などとおして、改善すべきだと考えた課題は何か ② その課題改善のために考えたまちのイメージはどのようなものか ③ そのイメージが具体化されたまちは、どのようなまちか ④ そうしたまちをつくるメリットや効果として、どのようなことが挙げられるか ⑤ このまちの実現のために必要なことは何か	・論理性や説得力の高い提案となるように、根拠・理由を示す部分は客観的・科学的な事実や情報、データを用いるようにする。 ・伝える内容によって、最適な方法を考えていくようにする。(話す・見せる・体験(体感)してもらうなど)	
表現	○学習集団外の人を招き、「未来のまち 提案会」を開く。 【参考】外部の人(例) ・福祉体験先の方々 ・他学年生徒 ・保護者 ・地域の方 ・行政関係者 ・市議員 ○提案会後に、参加者全員で討論会を行い、地域の課題・これからの地域の在り方について話し合う。	・外部の人を招く意図は、 ① アイデアや発想の質、案に込めた思い・学びの成果について客観的な立場から評価・助言をもらうため ② それぞれの案に込められた理想や願いをより学習集団外の人にも広げたいため ・それぞれの提案、それに対する感想・評価を共有した後で、参観者を含めた全員で「地域」について話し合う機会を設定することで、上記の②への効果や地域課題に向かう生徒の主体性をより高められるようにする。	
まとめ	○学習の振り返りをする。 ①個人での振り返り 【「丹後学」としての単元のねらい+「総合的な学習の時間」の目標に関わる設定項目に対して記述】 ②学級での振り返り 【発表・話し合いでの交流】	・自己の生き方・在り方やキャリア教育的な視点を項目として設定した場合は、事後、「キャリアパスポート」にファイリングする。	地域と自分との関わりについて学んだことを整理し、今後の自身の生き方・在り方について考えを深めている。 【思考力】 ・ワークシート ・発表・発言

令和 4 年度

- 部長
植野 正美(いさなご小学校長)
- 副部長
野村 圭乃(網野こども園長)
- 部員
西村 繭子(網野こども園)
工藤 理恵(峰山小学校)
小林 雄太(大宮第一小学校)
杉 実佑輝(網野中学校)
栗倉 雅久(久美浜中学校)
- 京丹後市教育委員会事務局
久保 有紀(教育理事兼総括指導主事)
上田 真吾(主幹兼指導主事)
澤居 明彦(主幹兼指導主事)
戸田 美保(主任兼指導主事)
増田 孝志(主任兼指導主事)
渡利 秀子(子ども未来課主任兼指導主事)

令和 5 年度

- 部長
今度 義則(網野中学校長)
- 副部長
植野 正美(いさなご小学校長)
- 部員
谷口 有香(大宮こども園長)
高田 悦美(島津保育所長)
杉 実佑輝(網野中学校)
眞柴 久和(大宮中学校)
中矢 敬太(島津小学校)
工藤 理恵(峰山小学校)
中村 里佳(網野南小学校)
- アドバイザー
廣瀬 正貴 様(ヒロセ工業株式会社)
稲本 朱珠 様
(京丹後市未来チャレンジ交流センターRoots)
奥 勇介 様(京丹後市文化財保存活用課)
- 京丹後市教育委員会事務局
久保 有紀(教育理事兼総括指導主事)
上田 真吾(主幹兼指導主事)
澤居 明彦(主幹兼指導主事)
戸田 美保(主任兼指導主事)
長砂 健(主任兼指導主事)
渡利 秀子(子ども未来課主任兼指導主事)

令和 6 年度

- 部長
藤原 哲也(峰山中学校長)
- 副部長
岩田 久美子(大宮南小学校長)
- 部員
谷口 有香(大宮こども園長)
高田 悦美(島津保育所長)
杉 実佑輝(網野中学校・籍)
眞柴 久和(大宮中学校)
中矢 敬太(島津小学校)
工藤 理恵(大宮第一小学校)
中村 里佳(高龍小学校)
- アドバイザー
廣瀬 正貴 様(ヒロセ工業株式会社)
稲本 朱珠 様
(京丹後市未来チャレンジ交流センターRoots)
奥 勇介 様(京丹後市文化財保存活用課)
- 京丹後市教育委員会事務局
久保 有紀(教育理事兼総括指導主事)
高篠 拓也(参事)
小西 隆士(主幹兼指導主事)
澤居 明彦(主幹兼指導主事)
戸田 美保(主任兼指導主事)
長砂 健(主任兼指導主事)
藪下 和栄(子ども未来課主幹兼学校教育課指導主事)
川戸 智司行(探究コーディネーター)

「令和 5 ・ 6 年度活用版」作成

「令和 7 年度改訂版」作成